

現代文B 改訂版 上巻 下巻

[現B329] A5判・296ページ
[現B330] A5判・272ページ



こんな指導に 豊富な評論教材の中から自由に選び、入試頻出の筆者、テーマ、キーワードを押さえて、読解力をしっかりつけたい。

ここを改訂! 評論教材やキーワード解説を増補。さらに、知識を広げる「近現代評論史」、コラム「評論の視点」「文学の視点」、論理的な文章の書き方がわかる「小論文入門」を新設しました。

関連記事

「対話」の重要性和喜びを実感させる（三宅義蔵）→p.14
独自の「視点」で社会を考える（門倉正二）→p.16
新しいタイプの現代文化批評として（高橋龍夫）→p.20

特集：「現代文B」改訂版でこんな授業がしたい

3分でわかる！ 大修館「現代文B」改訂版

当たり前だと信じてきた前提を疑うこと。

情報を読み解き、自分の力で考えること。

他者との対話を重ねながら未来を切り拓いていくこと。

大修館の「現代文B」改訂版3点は、新しい時代に求められる

国語の力を身につけることができるよう、工夫を凝らしました。

新編現代文B 改訂版

[現B332] A5判・342ページ



こんな指導に 親しみやすい教材を読んで自分の生き方や将来についての考えを深めつつ、社会で生き抜くための国語の力を身につけたい。

ここを改訂! 高校生が直面する問題を扱う教材や、心に響く教材を増補。また、テーマを決めてレポートを書く活動を設置し、豊かな言語活動が展開できるように工夫しました。

関連記事

ユーモアを味わい、心を豊かに（高草真知子）→p.22

精選現代文B 新訂版

[現B331] A5判・472ページ



こんな指導に 言語活動を活発に行いながら、新しい学力観を見据えて、思考力・判断力・表現力をはぐくみたい。

ここを改訂! ささまざまなシーンでの話す、聞く、書く活動に役立つ「豊かな言語活動のために」、文章の読み比べや図表の読み取り、調べ学習などの課題が設置されたコラム「思考と表現」を新設しました。

関連記事

「対話」の重要性和喜びを実感させる（三宅義蔵）→p.14

独自の「視点」で社会を考える（門倉正二）→p.16

日本人の美意識をさぐる（奥村準子）→p.18



分冊・精選 「対話の精神」

「対話」の重要性と喜びを実感させる

みやけよしろう
三宅義藏

千葉県立千葉高等学校教諭
大修館書店教科書編集委員

1 「会話」と「対話」

平田オリザ「対話の精神」は、「対話」とは何かについてわかりやすく説明し、「対話」の重要性と「対話」の喜びをしっかりと伝え、ぜひ「対話」をしたい、と強く思わせる評論である。

授業では、まず、「会話」と「対話」はどう違うか、生徒に考えさせ、問いかけてみたい。その上で筆者の定義を確認させる。

「会話」＝価値観や生活習慣なども近い親しい者同士のおしゃべり。

「対話」＝あまり親しくない人同士の価値観や情報の交換。あるいは親しい人同士でも、価値観が異なるときに起こるその摺りあわせなど。

生徒には、自分の生活を振り返らせ、「会話」と「対話」のどちらが多いか発表させる。筆者の言う「対話」

「話」はほとんど無い、という答えが多いと予想されるが、ではそれはなぜか、と考えさせたい。その上で筆者の考えを読み取らせる。筆者は言う。

日本社会にはこの「対話」という観念が稀薄である。それは、稲作文化や、人口流動性の少ない社会を作った徳川幕藩体制などが「わかりあう文化」「察しあう文化」を作ったためであろう。一方、ヨーロッパでは、異なる宗教や価値観が陸続きに隣りあわせているために、「説明しあう文化」を形成してきた。これから国際社会を生きていく日本の若者には、わかりあう・察しあう日本文化に対する誇りを失わないまま、少しずつでも、他者に対して言葉で説明する能力を身につけてほしい。

以上のような要旨を示すだけでは伝わりにくいが、実際の文章は正岡子規の句が有効に用いられるなど、その説明、提言は実にわかりやすく、説得力

をもったもので、多くの生徒たちは、日本文化に対する理解を深めつつ、筆者の言う「対話」の重要性をあらためて強く認識するだろう。

2 「対論（ディベート）」と「対話」

次に、「対論（ディベート）」と「対話」はどう違うか、生徒に考えさせ、問いかけてみたい。生徒たちは、団体戦と個人同士の違い、などと答えるかもしれないが、筆者は次のように説明する。

「対論」＝AとBという二つの論理が戦って、Aが勝てばBは意見を変えねばならないが、勝ったAの方は変わらない。

「対話」＝AとBという二つの論理が摺りあわさり、Cという概念を生み出す。AもBも変わる。

この違いを生徒は驚きを持って受け止めるだろう。筆者は言う。

AとBが摺りあわさって新たにCという概念を生み出すこと。こういう議論の形も日本人は苦手だ。最初の自分の意見が変わると、何か嘘をついたように感じたり、敗北感が伴ったりするのだろう。だが、「対話的な精神」とは、異なる価値観を持った人と出会うことで、自分の意見が変わっていくことを潔

しとする態度、そこに喜びを見出す態度なのだ。

ここでも筆者は、ヨーロッパでの仕事の様子を具体的に紹介しながら、「対話」の重要性を明確に説明する。多くの芸術家が国際協働作業で失敗する現実がある中、国際的に活躍を続ける筆者の説明や提言は、非常に説得力がある。

3 「対話」の実践

以上のように「対話」の重要性と喜びを知れば、生徒たちは実際に「対話」をやってみたく強く思うようになる。その思いを生かし、授業でさまざまな「対話」を行わせたい。「学習のポイント」にあるテーマについて「対話」を行わせるのもよいし、次の教材である「ミロのヴィーナス」や「山月記」などの授業で、いくつかのテーマを設定して「対話」を行わせるのもよい。

生徒たちは自分の考えをしっかりと述べ、その考えが友人の考えと摺りあわさって一段高いものになっていく喜びを実感するだろう。そしてその経験が、さらに「対話」への意欲を高め、かつ、教材にしっかりと取り組む姿勢を作り出していくだろう。

そのような働きをもつ「対話の精神」を、学年の初めにぜひ読ませたい。強くそう思う。



分冊・精選 「コミュニティから見た日本」

独自の「視点」で社会を考える

かどくらまさじ
門倉正二

元東海大学教授
大修館書店教科書編集委員

■新しい「視点」を学ぶ

「コミュニティから見た日本」というタイトルからまず考えられるのは、「日本」という私たちの社会の特色を、「コミュニティ」という観点から論じたものであろうということだ。人が自分だけで独立に生きているのではないことぐらい、高校生だって知っている。そのとき、個人とそれを取り巻く社会との関係は、いわば一対多で考えることがよくなされ、従来の教科書教材でも繰り返し取り上げられてきた。ところで、その社会は単に多くの人の集まりぐらいの漠然とした概念で考えてきて、そのあいまいな社会とそれに対立する、あるいは埋没する個人との関係として思考してきた傾向は、なかったか。「社会」をいわば自明のこととして不問に付してこなかったか。「コミュニティから見」という別の視点を導入した、この教材文の学習を提案すること

が、新教材提出の意図の大きな理由である。現象（この場合、社会であり日本であるが）をどのような視点で分析し、どのような特色を析出しているかを学ぶ、つまり他人の見方、論じ方をモデルとして学ぶことは、多くの評論学習の目指すところであろう。

■教材文の内容の紹介

筆者は、日本人の「家族主義的」な傾向がほかの先進国に比べて「社会的孤立度の高さ」を生むという、ある逆説的な事態を指摘し（ここで、ある統計資料を用いる）、それはなぜか、と問う。問題意識を明確に立てて、そこに「コミュニティ」というキーワードを導入する。社会という漠然とした語で言うのではない。この視点となる語を「帰属意識」と「相互扶助（支え合い）」の意識が働いているような「集団」と定義したうえで、日本の歴史を振り返りながら「農

村型」と「都市型」とに区分し、それぞれの特質を整理して、相互のかかわりを論じていく。もちろん、個人と社会の関係という従来型の視点も含みながら、二つの型の絡み合いを叙述する。次が、筆者の見通しである。

現在は日本人の関係をめぐる大きな過渡期であるとともに、多くの人々が従来の関係性に疑問を感じ、（略）新たなつながりの形に向けての行動を起こし始めている時期と言えるだろう。こうした意味で、現在そしてこれからの数年または数十年の日本社会は、ゆるやかな、しかし巨大な「関係性の組みかえ」の時代ともなるだろう。

筆者は、この文章で二つの統計資料を示しながら論じている。「先進諸国における社会的孤立の状況」と「人口全体に占める『子ども・高齢者』」なるものである。文章のみの読解学習になりやすい評論で、これはひとつの特色である。

■授業の展開例、二つほど

二つ目の統計資料を根拠に、筆者は子どもと高齢者の合計人口が、一九九〇年ごろから増加に転じて、

それが地域密着人口の主体になると予測し、次のように書く。

こうした事実注目すれば、少なくとも現役世代に比べて圧倒的に「地域で過ごす時間」が多く、自ずと地域の様々なことに関心が向く（しかも一定以上の時間的ゆとりのある）人々の群れが着実に急速に増えていくのがこれからの時代である。

だとすれば、「地域」というコミュニティ及びそこでの人との関わりがこれからの時代に存在感を大きく増していくのは、半ば必然的な構造変化であるとも言える。

先の引用部分もそうだが、このところは様々な意見の出る場所であろう。筆者はこれを肯定的にとらえている。討論学習を率先して行わせることができるところである。これが、二つ目の展開例。

二つ目に、統計資料を文章と絡めて読むという、普段あまり行わない学習を生徒に要求するが、その向こうに自分なりのコミュニティに関する考えをまとめ、それを踏まえた立論を目指すことなどは、どうであろうか。



精選 「実体の美と状況の美」

日本人の美意識をさぐる

おくむらじゅんこ
奥村準子

筑波大学附属高等学校教諭
大修館書店教科書編集委員

1 教材の魅力

高階氏の教材は「居住空間における日本的なもの」や「『美しさの発見』について」など、教科書でもおなじみであり、日本人の美意識について論じたものが多い。今回の「実体の美と状況の美」も、二〇一五年に出版された『日本人にとって美しさとは何か』に掲載され、西欧世界と日本の芸術作品を例に挙げながら、日本人の美意識の特徴を論じた教材となっている。

西欧世界における「美」の背景には、客観的な原理に基づく秩序があり、その典型として筆者は『ミロのヴィーナス』などのギリシャ彫刻における「八頭身の美学」を挙げる。一方、日本人は、どのような場合に美が生まれるかということにその感性を働かせてきたため、『枕草子』の「春はあけぼの」に記されたような季節の姿を模範的な「美」と捉えて

いる。その背景には、自然や季節の美しさが「うつくしいやすいもの、はかないもの」であるゆえに、「貴重で愛すべきもの」として、花見や月見など年中行事の伝統が継承されてきたと筆者は論じている。以上のような、美を捉える「複眼の視点」を通して、日本人が自然を愛しささまざまな芸術表現を行ってきた美意識について、理解を深められる教材となっている。

2 授業で取り組みたい試み

「現代文B」はこれまで、大学進学を意識した高校で読解中心に展開される場合が多かったが、今後は言語活動のいっそうの充実、とりわけ「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の実現が求められる。

「学習のポイント」では、先出教材「ミロのヴィーナス」の言う「状況の美」が生まれるわけだが、グローバル化の進む現代の高校生は、ヨーロッパの建築物がもつような、モニュメントとしての恒常性や秩序の「美」を好むかもしれない。

あるいは、模範的な「状況の美」として登場した『枕草子』にことよせて、「現代版うつくしきもの」をクラスでまとめてみるのも面白い。グループでリストアップした時に、対象となる「うつくしきもの」が、「実体の美」と「状況の美」のどちらの観点からその魅力を語れるか、話し合いながらまとめるとういだろう。古語の「うつくし」が現代の「かわい」を意味することをふまえて、日本人の「未成熟なものへの愛着」という美意識にも触れる必要があるが、多様なサブカルチャーを受容する現代の高校生は、多様な美の発見を楽しんでくれるだろう。

三年後に東京五輪を控えた日本は海外からの観光客が増大し、全国各地でグローバル化を実感するムーブメントが起きている。日本文化と日本人がもつ美意識の独自性について理解を深め、積極的に発信していくことが今後ますます若い世代に求められるだろう。

このような視点をふまえて、「現代文B」の言語活動例「課題を探索し、成果を発表したり編集したりする言語活動」の一例として、次のような言語活動を試みたい。

たとえば本文に登場した広重の《名所江戸百景》に倣って自分たちの住む地域（あるいは学校）の名所の紹介文を書く課題はどうだろうか。季節の風物や年中行事といった「自然との結びつき」があつて



分冊 「インターネットと人間観の変容」

新しいタイプの現代文化批評として

たかはし たつお
高橋龍夫

専修大学文学部教授
大修館書店教科書編集委員

■注目の評論

本教材は、日常的に普及した新たなメディアについて、構造的な視点から現代社会における意義と人間存在のイメージの変容を今後の展望として論じる評論である。インターネットは既に日常生活において欠かせない情報ツールであり、高校生にとってメディアとしての特性を具体的にイメージしつつ自覚的に捉えることは不可欠な観点であろう。本教材は現代社会の実情を論理的に理解しながら、日常の感覚に還元させる格好の評論である。

出典は『日本文化の論点』（ちくま新書 二〇一三・三）である。筆者の宇野常寛は一九七八年生まれで、活躍が注目されている若手評論家である。数冊の著書のほか、批評誌『PLANETS』を主宰し、メールマガジンの配信などコンテンツの企画も行っている。

宇野は本書のあとがきで「情報社会論とサブカルチャー批評とを往復しながら、現代文化批評の入門」として「普段は批評や思想に関心を持ったことのない人に手に取ってもらえるものを、議論のレベルを落とすことなくまとめたい」と述べる。ほぼ全世代に世界的規模で受容されるはや現代日本文化の一端を担うサブカルチャーは、今日の情報化社会を批評する際に無視できないジャンルである。宇野の論点は、サブカルチャーを作品の完成度や美的価値など文化の継承性として批評するのではなく、サブカルチャーが備える社会的機能の構造的な側面に光を当てて。とりわけソーシャルメディアによる発信者と受信者との双方向的な影響関係に着目し、双方の想像力を共有した共同制作による二次創作の現象を評価することで、その柔軟な関係性に新たな日本文化の可能性を見ている。

■教材の内容

本教材は序章からの抜粋である。冒頭で現代社会における政治とメディアとの関係の今日的な動向を概観する。近年の国際的な事例を挙げ、民主主義や政治の仕組みをシンプルかつ手堅く説明した上で、マスメディアの存在を強調する。次にインターネットの出現によって「書かれたもの」によるコミュニケーションの出現を通して誰もが情報の発信者となり、情報が可視化され、「世論」が形成されると論ずる。そして「中間のもの」というキーワードによってマスメディアの衰退と、能動性と受動性との両極の間を柔軟に移動する人間の本质としての「中動態」という新たな人間観の発見を指摘する。インターネットの登場によって「中動態」としての人間が可視化され社会制度も変化することで、人間という存在のイメージが更新され人間と世界との関わり方に大きな変化が生じる可能性を展望として結論づけるのである。

■授業の展開例

本教材の読解に際しては、できるだけ具体的な事例を挙げつつ実感を伴った丁寧な内容理解が必要となろう。『日本文化の論点』では、特定のマスメディア

イアやソーシャルメディアの事例も示されているが、教材化にあたり割愛した箇所もある。抽象的な議論の箇所では本書を参考に教師側から事例を提示したり、グループ学習などの話し合いを通して生徒側から身近な例を発表させたりして授業を進めていくことも想定される。一方で、高校生が日常的に接するインターネットやソーシャルメディアであるが、本教材によって新たに得た知見や改めて抱いた疑問など、筆者の論点を評価する批評的な意見へと導く授業も想定できよう。日常に直結する題材であると同時に未知の論点に接続する内容であるため、アクティブラーニングによる話し合いや発表など、発展的な学習にも極めて有効な教材である。

インターネットの登場から二〇年程度しか経ていないが、個人と社会のあり方を変える手段として捉える筆者の視点は炯眼といえる。「中動態」という人間観は、生徒の思考力、判断力、表現力等を養うプロセスにも接続し、かつ現代社会を主体的に見据える眼をも養うであろう。新しいタイプの現代文化批評ともいえる「インターネットと人間観の変容」は、新たなメディアを紹介しながら自己と世界との関係性に改めて自覚を促す格好の評論教材である。



新編 「祖母が笑うということ」

ユーモアを味わい、心を豊かに

たかくさ まちこ
高草真知子

麗澤大学・麗澤中学高等学校講師
大修館書店教科書編集委員

1 又吉直樹が教科書に載るということ

又吉直樹の「火花」が芥川賞を受賞したとき、皆さんはどう感じましたか。「お笑い芸人に話題作りで賞を与えて」と批判した人もいたでしょう。でも、一方で「又吉は本物」と評価する人も多かったと思います。「火花」は、ふだんは本など読まない人々が、芸人又吉が書いたということを手に取り、二九〇万部を超えるベストセラーになりました。若者たちの挫折や哀感をリアルに描き、文学としてのおもしろさが、本を読まない人々にも伝わったのでしょうか。

この「祖母が笑うということ」もまた、ふだんは国語の教科書になど興味を持たない生徒が、又吉が書いたという手に取り、読む楽しさを味わってほしいと思い、採録しました。

又吉（僕）と沖繩に住む祖母との交流が、ユーモアを交えて生き生きと描かれ、最後は幸せな気持ち

になれるエッセイです。沖繩の青い空と白い雲、それを見つめる又吉らしき人物とおぼあいのイラストも、イメージを広げてくれます。夏休み前に読むと、気分も盛り上がり、祖父母や親戚とのつながりに思いをはせるきっかけになるでしょう。

2 ユーモアのある表現を楽しむ

まず、全文を音読した後で、四、五人のグループを作り、ユーモアを感じた部分や印象に残った表現について話し合います。

笑いのツボは人によって違いますが、私がおもしろいと思ったのは、幼いころ、虫を怖がっている僕に祖母が「この家にいる生き物は、全部おじいちゃん（すでに他界）だよ。ナオキを見にくるんだよ」と言うのを聞き、「家に虫が二匹いるときは、どのように祖父が配分されているのかわからず悩んだ」

というところ。又吉の独特の感性や屈託は、こんなところにも由来していたのかと思ひ、笑えます。

また、芥川賞のお祝いに、親戚一同でカチャーシーという沖繩の踊りをおどっていたとき、祖母の手つきを「異常なほどキレイがあつて美しかった」と表現している点も心に響きました。九十歳を過ぎた祖母が、大勢の子供や孫、曾孫に囲まれ、キレイの踊りをおどる姿は、まさに一族の長の風格で、「祖母の存在がなければ、ここに集まった人たちもいなくなる」ということが実感できる光景です。一本の大木から大きな枝が豊かに広がっている景色が目の前に広がりました。

3 気に入った場面を選び、グループで群読する

僕と祖母の掛け合いは、まるでコント。気に入った場面をグループで選び、僕、祖母、親戚たち、地の文を分担し、場の雰囲気や伝わるように朗読します。文章に本気で向き合い、より深い鑑賞ができるでしょう。たとえば、次の場面などいかがですか。

「忙しいだろうから、次は葬式まで帰ってくるな。もうこれが最後だからね。」と沖繩の方言で話す。

「また、くるよ。」という僕の言葉を親戚が通訳のように沖繩の方言に変えて祖母の耳もとで話す。

帰り際、祖母が僕に「早く結婚しなさい。」と言う。「相手おらんねん。」と僕は答える。祖母は「選ぶからだよ。」と言う。「違うねん。好きな人に振られてん。」と僕は答える。親戚の通訳を介さずに交わされた、その会話を聞いた親戚たちは、毎度のごとく、「ナオキ！ 沖繩の方言わからんくせに！」と言って笑うのだが、その直後に、「あれ？ なんて、おばあ耳聞こえてるの？ いま普通に話してたよね？」と気づいて大笑いになった。

4 タイトルの「祖母が笑うということ」に込められた筆者の思いとは？

このような抽象的な問いかけは、答えにくくて生徒は嫌いますが、でも大丈夫。答えは最後の文章に明確に書いてあります。それは、「祖母が笑うことは僕が笑うことであり、祖母の幸福は僕の幸福でもある。」という一文。人は一人では幸せにならない、みんなの笑顔によって幸せは循環され、満たされるということでしょうか。さすが芸人、オチが決まっていますね。

精選古典B 改訂版

[古B 341] A5判・392ページ



こんな指導に 精選された教材で古典の世界を俯瞰。古典への興味・理解に裏打ちされた真の読解力を、活動を通して育みたい。

ここを改訂! 紙面レイアウトを見やすく一新。古典の指導をアクティブにする言語活動や、古典の理解に役立つ新しい教材化・コラム・資料類を豊富に盛り込みました。

関連記事

言語活動で古典をもっとアクティブに! (西一夫) →p.26

新編古典B 改訂版

[古B 342] A5判・366ページ



こんな指導に 古典に触れる楽しさ、古典の奥深さを、生徒にもっと身近に伝えたい。古典の言葉・感覚を、今につながるものとして実感させたい。

ここを改訂! 古典の楽しさと奥深さが味わえる新教材を収録。特集ページやことわざ・故事成語に関わる付録も新設し、「古典と現代がリンクする教科書」を目指しました。

関連記事

安倍晴明から百鬼夜行へ (田口和夫) →p.28

漢文入門期における熟語の活用 (渡辺雅之) →p.30

特集:「古典B」改訂版でこんな授業がしたい

3分でわかる! 大修館「古典B」改訂版

「高校生の7割以上が古典嫌い」といわれる現代、
どうしたら古典が本当に「わかる」ようになるのか。

古典の「おもしろさ」を伝えるには、何が必要なのか。

大修館の新しい「古典B」教科書は、その点を徹底的に考えました。

古典B 改訂版 古文編 漢文編

[古B 339] A5判・312ページ

[古B 340] A5判・182ページ



こんな指導に 分冊タイプの豊富な教材で文学史を網羅。大学入試まで見据えた古典の読解力、理解力をしっかり身につけたい。

ここを改訂! 豊富な教材はそのままに、紙面レイアウトを見やすく一新。古典の理解に役立つ新しい教材化・コラム・資料類を積極的に盛り込みました。

関連記事

言語活動で古典をもっとアクティブに! (西一夫) →p.26





精選・分冊
「言語活動」

言語活動で、古典をもつとアクティブに！

西 かずお
一夫

信州大学教授
大修館書店教科書編集委員

はじめに

現行の学習指導要領では、学習活動に「言語活動」(資料)が設定され、次期学習指導要領においても引き継がれることとなります。小学校・中学校の全国学力・学習状況調査(B問題)では根拠や立場を明確にしながら考えを記述する問題が出题されるなど、学習形態の変革が求められています。古典学習においても、従来のような訓詁注釈にとどまらない「言語活動」がさらに重要になるでしょう。

今回の「古典B」の改訂では、このような動きに対応して、学びの形態をアクティブにする、多様な「言語活動」を取り入れた学習課題を提案しています。

■調べて分かったことを報告する(ア)

このタイプの「言語活動」としては、『古今異義語辞典』を作る』のような課題を設けました。『枕

草子』に即して、「めでたし」「さらに」等の語を例示して「古今異義語辞典」を作る手順を具体的に示したのですが、それ以外にも、既習の重要単語「ありがたし」「やがて」等を加えて語数の確保ができます。また「青春」「故人」「遠慮」等の漢語も対象とすることで、日本語の変遷を知る「言語活動」として位置づけられるでしょう。

■「読み比べ」で理解を深める(イ)

『伊勢物語』「つひにゆく道」は、簡潔な散文と和歌一首であるのに対して、『大和物語』では、筋立てた歌物語としての体裁があります。和歌が二首あることによる物語の構成の相違や共通する和歌を読み比べることで、それぞれの歌物語の特色を文学史的な知識も活用しながら、項目立てをして報告する「言語活動」で教材への理解を深めます。

■人間の生き方・考え方について話し合う(ウ)

『平家物語』「忠度都落ち」では、平忠度が都落ちする際に口ずさむ漢詩に託された気持ちを考える「言語活動」を設けています。

この詩句は『和漢朗詠集』の「餞別」に採録され、

渤海国の使者との

別れを悲しみ、再

会の難しいことを

述べています。こ

こでは、古典の一

節を引用すること

で本来の意味と平

忠度がどのような

気持ちで口ずさむ

のかとを対照しま

す。前半では作者

の大江朝綱が帰国

する使者の長旅を

思い、すでに故郷

への思いで心が満

たされていること

を述べます。後半

■課題探究——「古典探究」に向けて(エ)

教材で学習した内容を深めたり広げたりするため、発展的な課題を設定した「言語活動」があります。『更級日記』に設定されたコラム型の「古典の『夢』について調べる」です。教材本文の中で印象的に用いられている「夢」の描写を手掛かりに、古典作品に見られる「夢」の表現を調べてまとめる学習です。現在でも「夢」は身近な感覚ですが、古典世界と現代での共通点や相違点を知ること、古典に親しみを持つ契機となるでしょう。さらに「月」「花」「露」など異なる素材による探究学習も提案しています。

教科書内に散りばめられたこれらの「言語活動」を活用して、アクティブな古典の授業が展開されることを期待しています。

【資料】学習指導要領に示された「古典B」の言語活動例

- ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。
- イ 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。
- ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。
- エ 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりすること。



新編 「安倍晴明と百鬼夜行」

安倍晴明から百鬼夜行へ

たぐちかずお
田口和夫

文科大学名誉教授
大修館書店教科書編集委員

『新編古典B 改訂版』の新教材「安倍晴明と百鬼夜行」(『今昔物語集』p.14)は後に引用するように、幼い晴明が師の賀茂忠行の伴をしていた夜、百鬼夜行に出会う話で、「表現の窓1 古典の背景を調べる」(p.18)と密接に関連するものとして採録している。古典を読む喜びは「発見」にあると言ってよいであろう。遠く無縁であるときめつけていた時代に、現代と同じことを考えていた人がいた、そう発見すると、無縁に見えていたその時代の古典が、いかにも親しいものとして現れてくるのである。それほどではなくても、分かったような気になっていた言葉が、全く違った重要な働きをしていた、という「発見」でも、やはり古典は身近な存在となるのである。そのような「発見」をするためには、古典をどのように読めばいいのか。この教材では、まず「読み比べ」によって、古典を「読む」方法に触れてみたい。

『今昔物語集』を上段に、夢枕蓑「陰陽師」を下段に、内容が対照できるように組んであるが、ここでは先に『陰陽師』を読みたい。夢枕の文章は『今昔物語集』を素材にして叙述していると分かるような表現をしている。その後で『今昔』を読めば、夢枕が何を捨て、何を補ったかが分かる。なぜそうしたのかを考えることが、この場合、『今昔』の「発見」に繋がるのである。

例えば夢枕は、幼い晴明について『今昔』が「いさかも心もとなきことなかりける」とするのを捨てて、「特殊な才能の片鱗を見せている。一種の天才であつたらしい」とする。学ぶことにおいて不足・未熟なことがない、という『今昔』の表現は前に続いてそのまま完結している。それに対して夢枕の方は、これから起こることの伏線となっている。そのあとの叙述は、夢枕の方が圧倒的に多い。それらを

補うことによって「師の忠行が下渡に夜行」という『今昔』の素っ気ない表現が、平安京の夜の出来事として実感を持てるようになるのである。ただし、「怖ろしき鬼ども」が見えたとき、「晴明これを見て驚きて、車の後ろに走り寄りて」を、夢枕は「晴明は、ただちに牛車の窓を開け、『忠行さま——』眠っていた忠行を起こし」とする。教科書一七ページに載せた岡野玲子のマンガは、まさにこの場面を絵にしたものだが、ここでは晴明は車の後ろの御簾越しに呼び掛けている。これは岡野の方が正しい。夢枕は原文にある「車の後ろ」を見落とし、牛車の構造も考えなかったのである。こう気付くことも一つの「発見」である。夢枕は岡野のマンガ『陰陽師』が出版されたとき、岡野の考証のすばらしさに言及しているが、これも岡野が夢枕を超えた一例なのである。

この説話に登場してくる「えもいはず怖ろしき鬼ども」は「百鬼夜行」と考えてよい。「表現の窓1」に記したように、『大鏡』の藤原師輔伝に「百鬼夜行にあはせたまへるは」として、師輔だけが見ることのできた「百鬼夜行」のことを記している。『宇治拾遺物語』第十七話「修行者、百鬼夜行にあふ事」

には「夜中ばかり」に「人百人ばかり」「目一つ付きたるなどさまざま」で「角生ひ」たものもいると記される。第三話「鬼に瘤取らるる事」において翁が出会うのは「赤き色には青き物を着、黒き色には赤き物をたふさぎにかき」「目一つあるものもあり、口なきものなど」「百人ばかり」であった。『今昔』巻十四第四十二話「尊勝陀羅尼の験力に依りて鬼の難を遁るる語」は藤原常行が忌夜行日の夜、神泉苑の北門で多くの鬼に出会う話である。時代が下り室町時代になると、教科書に掲出した真珠庵本『百鬼夜行絵巻』のように古道具の精霊が行列する「百器夜行」と意識されることになる。

「表現の窓1」に掲載した岡野が描く百鬼夜行は、その棟梁に菅原道真の怨霊を据えている。そのことによって岡野は、集団で夜行する以外は特に目的のないらしい百鬼夜行に、政治的な意味を加えた。平安時代に戻してみれば、火雷神となった道真の怨霊は、百鬼夜行の棟梁としてこれ以上ない存在であった。そう考えると、この二つを結び付けた岡野の才覚は、平安時代人を超えて平安時代らしさを表現しえたと言つてよいであろう。『大鏡』や『北野天神縁起』を調べて、このことを確認したいものである。



新編 「漢文への招待」

漢文入門期における熟語の活用

わたなべ まさゆき
渡辺雅之

元筑波大附属高等学校教諭
大修館書店教科書編集委員

1 熟語を訓読する

漢文の導入教材として故事成語がふさわしいことはよく知られているが、筆者は長年、二字・三字・四字などの熟語を用いて入門期の導入としてきた。熟語を訓読することで、漢文学習の基礎を理解するという方法である。いきなり訓点等の説明を始めるよりも、訓読とはどういうものなのかを理解させることを重視したい。文ではないので、取っつきやすいのが利点である。その熟語の意味を考えないと正しい訓読ができないということを認識させるのが効果的なのである。

当然ではあるが、生徒がよく知っている熟語を例に挙げるのがよい。たとえば二字の熟語で「日没」。生徒は普段使うときには意識していないと思われるが、この熟語の構造を考えさせるのである。「登山」を「山に登る」(登山)と読むように、「日没」も

読んでみよう、と問いかける。「日没む」などと読む者が多い。彼らは「没」が動詞であることはわかっている。しかし「没」は、日本語の訓として動詞では読めない。その場合は、動詞の部分音を音で読み、「す」「ず」という送り仮名を付け、サ変動詞として読めばよい。「日没」は、「日没す」「日没ず」と読む。同時に「日」と「没」が主語と述語の関係になっていることも理解させるとよい。

次に、「無知」。同様に訓読せよと指示すると、大半の生徒は「知ら無い」と読む。これでは訓読にならないので、何と読めばよいかを考えさせる。「知る無し」(無知)あるいは「知ること無し」(無知)である。

続いて「救急」。「キュウキュウシャ」を漢字で書けと言うと、「救」も「急」も音が「キュウ」なので迷う者もいる。「緊急事態」||「急」を「救」う

車であるから、「救急車」(救急車)なのである。ちなみに、中国では「急救車」と表記する。これは「急救車」(急救車)で、日本語とは意味が異なるのである。

2 四字熟語を訓読する

四字熟語の場合は、さらに本格的な漢文訓読に近づく。たとえば「以心伝心」の学習は効果的である。大半の生徒が「心を以て心を伝ふ」と読む。必ずしも間違いとは言えないが、もつとよい読みがあることを示す。「心を以て心に伝ふ」(以心伝心)が正解。この読みが優れているのは、二字目の「心」と四字目の「心」が完全に別人のものであることを表せるからである。

同じ意味で「良妻賢母」がある。こちらは入門期としてはかなりの難問となる。これも間違いとは言えないが、「良き妻、賢き母」と読む者が多い。そこで、「以心伝心」を例に挙げ、この「妻」と「母」の関係はと問う。なかなか正解には到らないが、「良き妻にして賢き母なり」(良妻賢母)と読むのが、「妻」と「母」とが同一人物であることを明確に表せる点で優れた読みであることを確認する。

「不即不離」。熟語として知らない者も多いが、「即」の読みがポイントになる。「即位」という熟語を手がかりとする。「即位」は、「位に即く」(即位)である。「即かず離れず」(不即不離)と訓読する。付き過ぎず、離れ過ぎずの微妙な距離を保つ意であることを確認する。

さらに上級の熟語として、三字熟語の「未曾有」がある。これは「未」という再読文字を含むので難しい。「曾」は「かつて」と訓ずる。「未だ曾て有らず」(未曾有) || 「今までにあったためしがない」である。

熟語を訓読する際は、このようにその熟語の意味をよく考えないと、ふさわしい訓読が得られない。意味が理解できれば、自信を持って熟語を使用できるようにもなる。この繰り返しによって、漢文訓読の基本が理解でき、さらに送り仮名の重要性なども意識できる。入門の入門という意味で、抵抗なく漢文の学習に取り組めるようにするには最適の方法だと思われる。

『新編古典B 改訂版』の付録「故事成語」も併せて活用して、生徒の知的好奇心を大いに刺激し、日常の語彙を増やす指導をしていただきたい。



Q 夏目漱石「現代日本の開化」はどう扱うか？

今年は漱石生誕一五〇年です。定番の評論教材として「現代日本の開化」があります。なにぶん一〇〇年以上前の講演で、生徒としても時代のずれなどを感じることもあると思いますし、この文章自体がかなり長く、実際の授業ではどのように扱うかいつも迷います。「今」だからその有効な授業方法は無いでしょうか。

宮城県・27才女性

A 新見 公康

元都留文科大特任教授

時空を越えると問題点が明瞭になる場合があります。漱石の文明批評は今も健在です。ここでは、現在の自分の問題として捉え直せるかがポイントとなります。「主体的・対話的で深い学び」としたいものです。「現代日本の開化」は、明治四四（一九一）年の講演をもとにした文章で、当時の人は聴いて分かったでしょうが、今

の生徒には、言語的抵抗が大きい部分があります。そこで、難解語彙の一覧を解説付きで生徒に予め示してしまうのはどうでしょう。語句調べをするぶん他の調べ学習等に充てるわけです。詳述・要約を伴う精読を四・五頁に絞り、残りを教師が概説し発展的学習を生み出すのもよいでしょう。日本の現状が多くの人々にとって「内発的」でないことは、今も変わりありません。IT社会の激変は当分続きます。明治の激変の時と似ています。「内発・外発」をテー

マに、話し合いを重ねたり、小論文を書いたりすると思考が深まります。その際、具体化が深い学びへの突破口となります。明治期に流入した文物・概念等を分担して調べ現代との繋がりを見たり、スマホを典型とするIT社会の新たな物事と人々との関係について考えをまとめプレゼンしたりするなどして、状況と「内発」との関わりを見極めたいものです。

また、漱石の他の講演、北村透谷「漫罵」、中村光夫「移動」の時代、森本哲郎「漱石と文明開化」(文藝春秋特別版 夏目漱石と明治日本) (二〇〇四)、加藤周一「雑種文化」などとの比べ読みは問題点を現在に引き付けます。さらに、柄谷行人「日本近代文学の起源」にある「風景」「内面」「病」「児童」などを日本近代の問題と捉える観点の獲得は、課題の広がりを示唆し、深い学びが期待できます。漱石をもとに、教科の枠を越えて、私たちの学びを意義あるものにしたいところです。

このコーナーでは、国語科にまつわる疑問・質問に、大修館の教科書編集委員が親身にお答えしていきます。質問は小社「国語教室Q&A係」まで。

国語の基礎力を 身につけられる



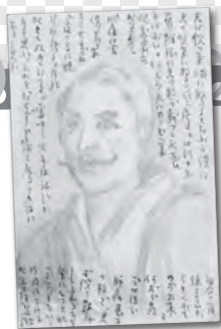
・クイズ形式で楽しく言葉の基本を学ぶ

教科書全体をとおして、問題を解きながら言葉の基本や単元の内容を学べる工夫をしました。さらに、「実践トレーニング」や「クイズで確認 間違いやすい言葉」も新設し、学習した内容+αをゲーム感覚で復習できます。

・好評の小論文教材にデータ型小論文も登場

小論文の書き方を基本から丁寧に解説。このステップなら誰でも小論文が書ける！新設の単元2レッスン4「統計資料を読み取って書く」で、入試頻出のデータ型小論文を書くコツも学べます。

身につけた国語の力を 応用する



・アクティブ・ラーニングにも対応

単元6「会話・議論・発表」を強化し、グループワークの基礎やプレゼンテーションの進め方を明快に解説。巻末資料「話し合いのいろいろ」を新設し、「シンク・ペア・シェア」「ワールドカフェ」など、協働学習の手法も解説しています。

・学習意欲を高める読み物・資料の充実

学習の参考や活動の動機付けとなる文章・資料を集めた「表現への扉」に、敬語や手紙に関わる読み物を新掲載。芥川龍之介のラブレター、太宰治の懇願状など、文豪の素顔もわかる資料「手紙のいろいろ」も新設しました。

特集：進化した「国語表現」改訂版

ひと目でわかる！ 大修館「国語表現」改訂版

おかげさまで、発行から大好評をいただいている大修館『国語表現』。
実際に授業で使用されている先生方から寄せられたご要望にお応えして、
わかりやすさ、使いやすさはそのままに、
さらに内容を充実、使い勝手をよくしました！

国語表現 改訂版

[国表307] B5判 206ページ

こんな指導に

- ・実社会で役に立つような、国語の基礎力を身につけさせたい。
- ・小論文や面接など、推薦入試や就職試験にも活かせる力をはぐくみたい。
- ・言葉遊びやポスター作り、朗読劇など、表現すること自体を楽しみたい。

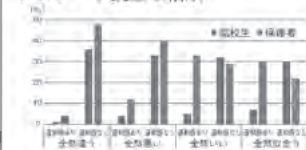
ここを改訂！ 大好評の内容はそのままに、実践的な問題を増補し、データ型小論文やアクティブ・ラーニングに対応した内容を取り入れるなど、さらに使い勝手のよい教科書に進化しました！

関連記事

「話し合い・プレゼンテーションの土台づくり」
(初谷和行) →p.40



アンケート調査の結果





国語表現 「会話・議論・発表」

話し合い・プレゼンテーションの土台づくり

はつがいかずゆき
初谷和行

大修館書店教科書編集委員
武蔵野大学講師

1 はじめに

大修館『国語表現 改訂版』では、第1部の第6単元「会話・議論・発表」を大幅に増補しました。ここは第1部の最後の単元であり、本単元の各レッスンの中心である「話すこと・聞くこと」のまとめとしても、あるいは「書くこと」としてのまとめとしても授業を作ることが可能です。本単元の中から、レッスン2「建設的な議論の進め方」と、レッスン3「プレゼンテーションの工夫」をとりあげて、どのような授業ができるか、紹介したいと思います。

2 実の場で楽しみながら思考力を養おう

(1) テーマ設定

授業者がこの学習を計画する際、大切なことの1つが、議論のテーマ設定です。「議論のための議論」

(レッスン2「建設的な議論の進め方」)

② 議論（検討）の観点を明確にする

例えば文化祭であれば、クラスの出し物として成し遂げたい姿について共通理解した上で、出し物を検討するとき際の観点を想定することが大切でしょう。これは③に述べる論拠の妥当性に繋がることです。

③ 論拠や構成員の意見を取り入れることにこだわる
LHRでの話し合いですと、出し物の内容を挙げた上で、「私がやりたいもの」「私たちが面白そうなもの」といような視点で多数決を行うことが一般的だと思います。国語の授業として行う際には、②で検討した目的や検討の観点をもとに、明確な論拠を交えて候補を絞っていくことにこだわりたいものです。また、検討の際には、より多角的な視点で検討することを促すといでしょう。さらに、少数の意見などでも目的に合致した考えであれば、それを合意していく内容の中に取り入れられないかなどの検討も行い、グループの構成員のより多くの人が納得する結論を導くような指導も必要だと思います。

④ 話し合いの手法や整理の手法を利用する
本教科書末尾の付録には、「話し合いのいろいろ」(P.188)や「発想法のいろいろ」(P.189)があります。

でも悪くないですが、例えば教科書の例（「文化祭でのクラスの出し物」）のような、学校生活で議論することがどうしても必要なテーマを設定するのはいかがでしょうか。

(2) 学習の進め方

文化祭をテーマにしたような議論ですと、「特別活動」のLHRと大差ないものになってしまうことが危惧されると思います。国語の授業として行う際には、次の点に留意する必要があるでしょう。

① 議論のプロセスの確認に時間を割く

議論においては、その参加者に充足感や納得感が生まれることが大切だと思います。そのような議論にするために、議論の過程、議論の人数（小グループ・全体）などについて、本格的な議論の前に話し合い、確認し合ってから議論に入ることが大切です。

レッスン2で紹介されているブレインストーミング以外にも、付録で取りあげられているバズセッションを利用してアイデアを出し合ったり、出てきたアイデアをKJ法で整理したり、決まった出し物について効率的に準備するためにツリー図で組織図を作成したりするなど、様々な話し合いの手法、思考法・整理法を用いると、更なる学びにつながるでしょう。

3 実践的な表現力を養おう

(レッスン3「プレゼンテーションの工夫」)

(1) 本単元の特徴

プレゼンテーションについては、実は国語科よりも情報科や総合的な学習の時間など、他の教科等で行われることの方が多いのかもしれませんが。そのような意味でも、社会に出てからを想定しても、プレゼンテーションを扱うことは実践的な学習であると言えると思います。他教科におけるプレゼンテーションは、プレゼンテーションの内容やプレゼンテーションソフトの使い方などに重きが置かれるのかもしれませんが、国語科の学習では、言葉の学習としてプレゼンテーションをとらえる必要があります。



本レッスンでは、プレゼンテーションにおいて言葉を用いて自分の考えを効果的に伝えるという観点から、その計画、準備、発表の過程について一つ一つ確実に学習することができます。

(2) 他のレッスンとの関連や往還を

本レッスンは、他の多くのレッスンと関連しています。

例えば、プレゼンテーションの内容・構成に関しては、第1部の第2单元「小論文・レポート入門」のレッスン6「レポートを書く」と関連するでしょう。このレッスン6では、レポートとはどのようなものなのか、調査の仕方、構成の仕方などについて学ぶことができます。プレゼンテーションの準備段階で、調査方法を検討したり、プレゼンテーションの構成を考えたりする際に参考になるでしょう。また、レッスン6でレポートを書いた上で、その内容をもとに本レッスンを行ったり、その逆を行ったりすることも考えられるでしょう。

「話すこと・聞くこと」という側面に焦点を当て

ると、プレゼンテーションにおいては、分かりやすい話し方や、聞き手を惹きつけるような話し方も求められます。そのような点では、第1部の第3单元「自己PRと面接」のレッスン2「効果的な自己PR」やレッスン5「面接にチャレンジ」、第5单元のレッスン3「ショートスピーチをしよう」、第6单元のレッスン2「建設的な議論の進め方」、第2部「演説合戦にチャレンジ」といった学習にも関連するでしょう。

4 おわりに

現在、学習指導要領の改訂作業が進められています。「国語表現」は、改訂の方向性として示されているような、資質・能力の育成と軌を一にするような科目であると考えます。また『国語表現 改訂版』は、次期指導要領の中心の一つであろう「アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）」が自然に行えるような作り方がされています。是非ご活用いただければと思います。

読んできた本、 読んでほしい本

(11)

まつもと まさき
松本真輝

鯖江市東陽中学校



※「冬の雁」には、「盆土産」をはじめ
十七篇の小説が収録されている。

■懐かしの「盆土産」

この春、今まで慣れ親しんだ高校の環境を離れて、新しく中学校の世界に飛び込むことになった。中学校での生活も何日か過ぎたのだが、やはり高校のシステムとは多く違いがあるように感じられ、現在の環境に慣れるために日々奮闘している。しかし、それでも生徒への関わりや教科の指導のポイントなど、共通している点も多いように感じている。

中学校に赴任してみると、(高校の時にも感じたが)やはりなんともいえない懐かしさがこみ上げてくる。目の前の生徒たちを眺めながら、自分の中学時代の思い出がまざまざとよみがえってくる。授業や合唱コンクール等の行事、部活動や、その時仲が

よかった友人やお世話になった先生方など。感傷に浸りながらも、生徒たちを指導している毎日を送っている。私は新学期に教科書をもらうと、まず初めに教科書に載っている全ての話を読んでしまうような生徒だった。あまり図書室にはよらず、だいたいの休み時間は友人と遊び回っていたことがほとんどだったのだが、四月の時期は別で、教室で黙々と教科書を読んでいたのを今でも覚えていいる。そのように中学時代の教科書で読んだ話の中でも、特に印象深く、未だに記憶に残っているものがある。それは三浦哲郎さん作の「盆土産」だ。

当時、この話の主人公のように父が単身赴任で東京に出ていたこともあって、初めてこの話を読んだときに、この話の主人公にひびく共感したのを今でも覚えている。

私の父親は、作中の父親より頻繁に帰ってきてはいたが、それでも父親に会うことができるのは基本的に週末だけであり、それも毎週ではなく、父親と久しぶりに会うことができないのを毎回楽しみにしていた。ただ、あまり家族で外出をした記憶がなく、部活動もありなかなか一緒に時間を過ごせなかったことも記憶に残っている。父親が帰って来るときに、持って帰ってくるお土産のことも、楽しみにしていた。決して「えんぴつライ」ではなかったのだが、でも有名なお土産品やお菓子だったのでも喜んでのを覚えている。

今でも、父親と話をするとき、その時の思い出とともに、「盆土産」の話が思い出される。この年になっても、思い出されるのだから、教科書というのは偉大だと思う。

本コーナーでは、毎回、全国のさまざまな先生方よりオススメの本をご紹介します。

〈座談会〉大修館「国語総合」で主体的な学びを

国語総合の改訂版が、今年四月から使用開始となりました。
 大修館書店の『国語総合 改訂版 現代文編 古文編』(344・345/以下②)、
 『精選国語総合 新訂版』(346/以下③)、『新編国語総合 改訂版』(347/以下④)は
 どのような内容で、教科書を用いてどのような授業ができるのでしょうか。
 新たに指導資料セットに加わった、『指導資料 言語活動編』の執筆者に語り合っていました。

大井和彦 下西美穂 永田里美 塗田佳枝 初谷和行 藤井ゆき 司会・編集部

授業のルール作り

——『国語総合』の改訂版が今年の四月から使用開始になりました。『国語総合』は、一年生の必修科目ですが、先生方は、一年生の最初の授業で行っていること、注意していることなどはあるのでしょうか。

初谷 私が高校の現場にいた頃は、最初にアイスブレイクとして、四〜六人のグループを作って、みんなの共通点を見つける活動を行いました。共通点といっても、めがねをかけている、というような見た目などではなく、意外性のあるものを見つけるように促しま

す。外見以外の共通点を探すためには、お互いに自分のことを話さないといけないので盛り上がりまずし、グループ内で盛り上げ役になりそうな生徒や、輪の中に入りにくそうな生徒などがわかるので、教師にとっても新年度の導入にはよい活動だと思えます。大人向けの講習で講師をやるときにもこの活動を行っています。

下西 私は、四人グループを作って「問答ゲーム」を行います。自分の意見を言うときに、その理由を必ずつける。相手に絶対に対突つ込まれない理由を嘘

でもいいからつけなさいというものです。例えば、ピーマンが好きだということにして、その理由を説明しなさい、とか。

このアイスブレイクを通して、論理とは、相手が納得する理由をちゃんと述べられることなんだよ、国語というのは論理的に考えていく教科なんだよ、ということが最初に説明できます。これから始まる国語の授業のルール紹介も兼ねています。

藤井 それは私もやったことがあります。自分の意見とその理由や根拠をき

ちゃんと示すことに慣れていない生徒も多いので、練習になっていいですよ。下西 理由として「なんとなく」は禁止、というのは伝えますね。

藤井 本文に基づいてきちんと読む、というのは大切ですよ。

私は学期の始めに必ず「ルールを明確にして対話をする」というのをやっています。ちょうど教科書の最初のほうに「尋ねあい」(③p.19)と「自由な主体に必要な『尋ねあい』」(③p.26)という教材があります。「受容的な雰囲気の中で伝える」思いを丁寧に確かめ合うのは大切」という主旨のもので、これを紹介しながら、他人をむやみに攻撃したり、意見を馬鹿にしたりするのは止めようね、というルールを伝えて傾聴の練習をさせます。こうすることで生徒は安心できるので、その後の対話の授業も続けやすいと思います。



初谷和行
(はつがい かずゆき)
武蔵野大学講師

下西 ルールは大切ですよ。私も、「意見は理由まで含めて言う」「笑顔で最後まで聞く」「意見ではなく理由を否定する」の三つは徹底させます。永田 最低限のルールがあるからこそ、安心して自由に発想や発言ができますよね。私も最初の授業では、フィードバックよりも「型」というか、ルールや論理などを意識して読むということとを伝えることが大事だと思います。大井 私は反対に、最初はそういったルールを確認しないで、痛い目にあってもいいかなと思っています。自分たちで「そういうことを言ったらダメ」と気づく、あるいは、教師が「それは本文のどこから読んだの？」とひたすら聞くとか、徹底して気づかせます。現在の勤務校は中高一貫校なので、人間関係ができてしまっているし、中学の卒業式もなく、高校生になった実感がありません。でも、教科書教材の抽象度は高校で一気によがってしまおうので、それをわからせるためにも、哲学的な教材を最初に取り上げます。「他者を理解するということ」(④p.56)など驚田

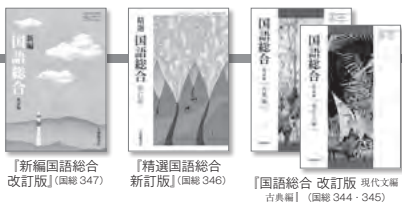
清一の教材が多いですね。まずはルールなどは関係なく、アイデンティティなどの話題を「自分はどう思うか」という観点から、読んだり話したりさせて、そこから本文の読解に入るようにしています。いろいろな起きますが、徐々に生徒たちも学んでいきます。

——導入にあたって、話し合いのルールを示す先生が多くいらつしやるようですが、『言語活動編』で「対話からはじめよう」(④・⑤)の指導案を執筆された塗田先生は、どのような授業始めをされますか。

塗田 『言語活動編』には、私の実践を書いています。勤務校では、授業開始前に、新入生交流行事があり、ある程度雰囲気が出てきているのと、自己紹介は何度もしているだろうということとで、趣向を変えてみました。対話をする際に自分で自分のことを伝えるよりも、お互いに相手のことを尋ねあう方が、工夫して聞いたり話したりするだろうということで、二人組でお互いに相手のことを質問しあって、その結果を発表させます。

国語でも、前に立って発表すること

〈座談会〉大修館「国語総合」で主体的な学びを



②:『国語総合 改訂版 現代文編・古文編』 ③:『精選国語総合 新訂版』 ④:『新編国語総合 改訂版』



大井 頭の中だけでなく、自分の感覚にしっくりくるということを考え、話ができるという面白さかと思えます。そういう意味では「人生は『動詞』で変

は、深まりが出ていいと思います。

藤井 作品を組み合わせ比べて比較するのは、東京などでは難しいだろうし。

解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、深まりが出ていいと思います。

大井 そうですね。時間の制約もあるので「方言の時代」と「言葉について」と「新しい認識」の二つで行ってもいいと思います。「方言の時代」は、自分の気持ちに乗った言葉としての方言と、規範的な意味の言語としての共通語が比較されていたので、身体論や他者理解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、東京などでは難しいだろうし。

藤井 作品を組み合わせ比べて比較するのは、東京などでは難しいだろうし。

大井 そうですね。時間の制約もあるので「方言の時代」と「言葉について」と「新しい認識」の二つで行ってもいいと思います。「方言の時代」は、自分の気持ちに乗った言葉としての方言と、規範的な意味の言語としての共通語が比較されていたので、身体論や他者理解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、東京などでは難しいだろうし。

藤井 作品を組み合わせ比べて比較するのは、東京などでは難しいだろうし。

大井 そうですね。時間の制約もあるので「方言の時代」と「言葉について」と「新しい認識」の二つで行ってもいいと思います。「方言の時代」は、自分の気持ちに乗った言葉としての方言と、規範的な意味の言語としての共通語が比較されていたので、身体論や他者理解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、東京などでは難しいだろうし。

藤井 作品を組み合わせ比べて比較するのは、東京などでは難しいだろうし。

大井 そうですね。時間の制約もあるので「方言の時代」と「言葉について」と「新しい認識」の二つで行ってもいいと思います。「方言の時代」は、自分の気持ちに乗った言葉としての方言と、規範的な意味の言語としての共通語が比較されていたので、身体論や他者理解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、東京などでは難しいだろうし。

藤井 作品を組み合わせ比べて比較するのは、東京などでは難しいだろうし。

大井 そうですね。時間の制約もあるので「方言の時代」と「言葉について」と「新しい認識」の二つで行ってもいいと思います。「方言の時代」は、自分の気持ちに乗った言葉としての方言と、規範的な意味の言語としての共通語が比較されていたので、身体論や他者理解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、東京などでは難しいだろうし。

藤井 作品を組み合わせ比べて比較するのは、東京などでは難しいだろうし。

大井 そうですね。時間の制約もあるので「方言の時代」と「言葉について」と「新しい認識」の二つで行ってもいいと思います。「方言の時代」は、自分の気持ちに乗った言葉としての方言と、規範的な意味の言語としての共通語が比較されていたので、身体論や他者理解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、東京などでは難しいだろうし。

藤井 作品を組み合わせ比べて比較するのは、東京などでは難しいだろうし。

大井 そうですね。時間の制約もあるので「方言の時代」と「言葉について」と「新しい認識」の二つで行ってもいいと思います。「方言の時代」は、自分の気持ちに乗った言葉としての方言と、規範的な意味の言語としての共通語が比較されていたので、身体論や他者理解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、東京などでは難しいだろうし。

藤井 作品を組み合わせ比べて比較するのは、東京などでは難しいだろうし。

大井 そうですね。時間の制約もあるので「方言の時代」と「言葉について」と「新しい認識」の二つで行ってもいいと思います。「方言の時代」は、自分の気持ちに乗った言葉としての方言と、規範的な意味の言語としての共通語が比較されていたので、身体論や他者理解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、東京などでは難しいだろうし。

藤井 作品を組み合わせ比べて比較するのは、東京などでは難しいだろうし。

大井 そうですね。時間の制約もあるので「方言の時代」と「言葉について」と「新しい認識」の二つで行ってもいいと思います。「方言の時代」は、自分の気持ちに乗った言葉としての方言と、規範的な意味の言語としての共通語が比較されていたので、身体論や他者理解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、東京などでは難しいだろうし。

藤井 作品を組み合わせ比べて比較するのは、東京などでは難しいだろうし。

大井 そうですね。時間の制約もあるので「方言の時代」と「言葉について」と「新しい認識」の二つで行ってもいいと思います。「方言の時代」は、自分の気持ちに乗った言葉としての方言と、規範的な意味の言語としての共通語が比較されていたので、身体論や他者理解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、東京などでは難しいだろうし。

藤井 作品を組み合わせ比べて比較するのは、東京などでは難しいだろうし。

大井 そうですね。時間の制約もあるので「方言の時代」と「言葉について」と「新しい認識」の二つで行ってもいいと思います。「方言の時代」は、自分の気持ちに乗った言葉としての方言と、規範的な意味の言語としての共通語が比較されていたので、身体論や他者理解についての話をくつつけると面白いと思うんです。地元の方言を調べるのは、東京などでは難しいだろうし。

〔分〕：「国語総合 改訂版現代文編・古典編」

〔補〕：「精選国語総合新訂版」〔新〕：「新編国語総合 改訂版」



塗田佳枝 (ぬりた よしえ)
筑波大学附属坂戸高等学校教諭

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。

藤井 国際バカロレアでは、ある作品を徹底的に批評・批判してレポートを書かせる課題があります。それを取り入れて「作品が面白かった」という感

なものでしょうか。



永田里美 (ながた さとみ)
短期大学
学長
准教授

した。「働く」ことが身近な生徒には、内容が響くようですね。他の教材もよく考えて選ばれていて、生徒の発達段階や学ぶ時期の影響を意識して配置してあるので、生徒も自分で考えて、思考を深めていけるように感じます。

大井 私も以前使っていました。三冊の中では一番構成や内容について意識しているように思います。「労働」というテーマもずっと載っていますね。

「ことば」に着目する教材

下西 私は「言語についての新しい認識」〔補〕〔分〕が好きで使っています。この文章を読むことで、生徒の言葉についての認識が崩れて、パラダイムシフトみたいなことが起こるんです。この教材から言葉の面白さにはまった生徒がいて、「他に面白い本はないです

か」と聞いてきたりする。教科「国語」ではなく、「言葉」というものの面白さに気づいてもらう、その入門として、よい教材だなと思います。

そういう意味では、新教材の「『方言コスプレ』現象」〔補〕P.169 も面白いですね。どういう言葉（方言）を使うかで、自分の立場を示す。同じ内容を伝えるのでも違いができるのはなぜかを生徒に考えさせたり、「豊かな言語活動のために①」〔補〕P.224 の意図や文脈に応じて適切な語を選ぶという内容に

なげたり、いろいろな広げ方が考えられます。辞書作り（国語辞典を作ろう）〔補〕P.172 も面白そうですね。

「『方言コスプレ』現象」は永田先生が『言語活動編』をご執筆くださいました

が、いかがですか。

永田 「『方言コスプレ』現象」は、文中にもあるように、メールやSNSの「打ちことば」で目にするものが多く、高校生には身近な内容です。言語の機能や働きについていろいろな気づきがあり、発展が期待できる教材です。

大井 言語がテーマの教材では、私は、

想ではなく、構成や文体、表現の効果

などを根拠にして説得力のある内容を意識して文章にまとめるという活動です。「水の東西」でも、よくある「対比的に書いていてすばらしい」という内容ではなく、構成や表現などで観点を分けて「構成はここがいいけど、客観性ではこうだね」ということを生徒に考えさせ、まとめるように指導します。

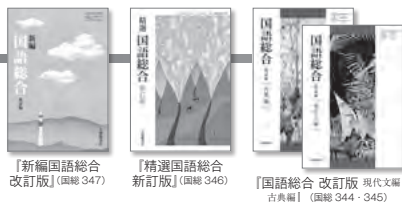
下西 ヨーロッパの国語教育ですね。最終的にはそこまでの力をつけてほしいです。「水の東西」は構造としてはわかりやすいけれど、考え方としては文化を東西で分けてしまう少し古いものかもしれないね、といった批評の目で、新しい本を読ませて何かを書かせるというのは面白い使い方もし

ませんね。

永田 コラム「広がる読書、広がる世界」〔補〕は教材のテーマに関する解説に加えて、同じテーマの読書案内もあるので、そうした活動に使えるですね。

「夢十夜」の「夜」を比較する

作品を比較する授業というところ、下西先



が、なかなか難しい。ここも図解が入っている、生徒が視覚で理解してくれるのはいいですね。

充実したコラムで基礎をおさえる古典編
——古典編についてはいかがでしょうか。

下西 教科書の古典編では、文章のすぐ横に写真をたくさん載せてあるのがすごくありがたいです。「祇園精舎」(精 p.300・分 p.72)のページにある沙羅双樹など、便覧などをわざわざ参照させなくていいので、授業の流れを止めません。

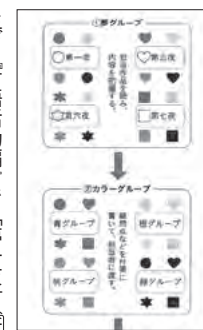
塗田 助動詞の活用表が後見返しに掲載になった(精・分)のがとてもよいです。生徒はいつも探すのに手間取って、そのうえ間違えて動詞の活用表のページを開いていたりするので。

永田 古典編もコラムが充実していて、「古文の窓」の「恋愛と結婚」(新・精・分)などはこれからの読みに役立っ内容だと思います。これも、先生たちが授業の中で補足として話していたようなことがまとめられていて、活用度が高い。二、三年でも使える内

生が「言語活動編」で「夢十夜」(新・精)の第一、二、四、六夜を読み比べる活動を紹介されていますが、実際に生徒からはどのような反応が返ってきますか。

下西 読みが深まっていくにつれ、「近代」というテーマに近づいていきます。一編だけ読むと「不思議な話だったね」で終わってしまうかもしれませんが、四編同時に読むことで、最初はそれぞれの作品を読んでいるという感覚なのが、「近代」という語が出なくても、「漱石が同じようなテーマで書いているようだ」「ではそのテーマは何か」というところまで自力でたどり着けます。読みが深まるので比較して読んでよかったです。

次の指導要領との連続を意識した工夫
下西 コラム「思考を深める」(精 p.62)

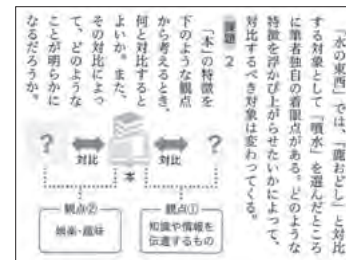


『指導資料 言語活動編』「夢十夜」

に對比についての説明があります。こういう説明は今まで教科書になく、自作プリントや板書で説明していたので、とても助かると思います。「水の東西」をやる前に「対比とはこういうものだよ」ということを押さえられるし、必要ときに生徒全員がすぐに確認できる。プリントはなくす生徒がいるから、その点でもありがたい(笑)。

初谷 こういう要素は、次の指導要領の「論理国語」を彷彿とさせますね。

永田 そうですね。一冊の教科書にまとめて、何度も確認できるのは、生徒の論理力を培う上で非常に便利だなと思います。



『精選国語総合 新訂版』「思考を深める①」(p.62)

容で、お得だなと思います。

初谷 見方を変えて言う、今までは「古文の窓」のような内容も私たちが教えて理解させる、という形だったけれど、もう教材としてある前提だから、これを使って読んでいったときに教材文がどう読めるんだろうと考えながらやっていくことが求められます。そこそが知識を活用する思考判断に関わることだということです。

藤井 「古文を読むために2」(精 p.257・分 p.18)に、活用と活用形の用法が載っているのもいいと思います。活用形と接続というのを生徒に理解させるのはなかなか難しいんですけど、このパズルのような図を見せると、対応関係が目でわかります。動詞の活用もわかりやすく、ありがたいです。

下西 文法書や便覧はとても細かいので、授業の合間や授業中にはなかなか読めない。コラムなどあれば戻って参照させられる。「ここを見れば用言については書いてある」と生徒のよりどころにできます。



『精選国語総合 新訂版』「古文を読むために②」(p.257)

私は、「水の東西」を扱ったあとに、別の題材を使って、「この論理展開に従って文章を書いてみましょう」という実践をしていたのですが、そのときにこうしたコラムがあったら便利だったと思います。自分で書いてみると、生徒も新たな発見がありますので、このコラムをきっかけにしてさらに教材が活用できると思います。

初谷 ベースとなる知識や技能を活用させながら読んでみましょうという学習のさせ方は、基本的に『言語活動編』に書かれていますよね。定期テストになると読解したことを暗記して、それを答えておしまい、だけにならないような構成、内容になっています。

塗田 「キーワード解説」(精 p.328・分 p.307)もいいですね。ここで解説されている「概念」とか「抽象」などは、黒板に絵を描いて説明したりします

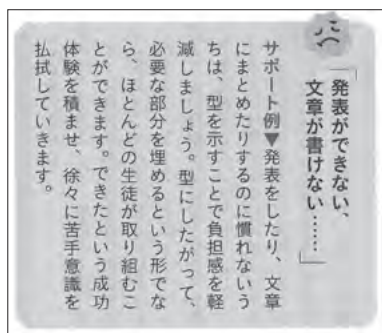
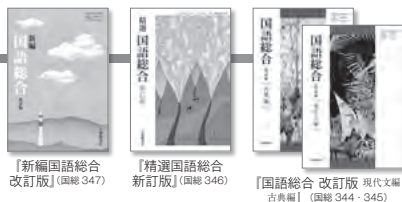


藤井ゆき (ふじい ゆき) 東京都立国際高等学校主任教諭

文法解説だけではない和歌の授業

——古典の授業は文法事項に傾きがちなといわれますが、アクティブ・ラーニングの要素は取り入れていらっしゃいますか。

下西 最近は和歌でやりました。グループで一首ずつ選んで、歌のよさをアピールする活動です。みんなに歌のよさを伝えて感動させるのを目標に、スマホ・辞書など何でも使用可、ただし情報源にするサイトは、信頼できるもののみとして、調べたことを発表しました。和歌は古典の基礎知識がないとわからないことが多いので、ヒントのプリントを配ったり、「辞書やこの資料は参考にしなさい」と伝えます。その



指導資料「言語活動編」サポート例



下西美穂
(しもにし みほ)
東京都立江戸川高等学校教諭

永田 今までも、アクティブ・ラーニングで、活用してほしいですね。
大井 生徒は柔軟ですからね。思っていたよりもすぐに適応してくれました。
塗田 生徒を信じてやってみるといことが大事ですよ。

永田 今までも、アクティブ・ラーニングで、活用してほしいですね。
大井 生徒は柔軟ですからね。思っていたよりもすぐに適応してくれました。
塗田 生徒を信じてやってみるといことが大事ですよ。

大井 こういうのは、自分が初任の時にほしかったですね。
永田 ここにあるサポート例は、先生方なら「あるある」と感じるような失敗事例ですよ。私も、自分が失敗したときに、他の先生にアドバイスをいただいたことを反映させています。失敗例があれば、若い先生や初めて取り組まれる先生も、失敗はあるものなんだと安心されると思います。失敗例はアクティブ・ラーニングにこれから取り組む、という先生方が、懸念されているような例でもあると思うので、

その対策を載せることで、現実的・実用的な欄になったのではないでしょう。か。
初谷 先ほど評価基準の話が出ましたが、評価の方法や基準は、ぜひ最初に生徒に提示してほしいですよ。あとは、塗田先生がおっしゃっていた、最初と最後に感想などを書かせるのも、自分の状態を自分で認識できるのでいいと思います。こういうことを書かせたらいいんだ、というときのために、『言語活動編』の資料として、記入例が載っているワークシート例もあり、データもCD-ROMに収録しているのでも、活用してほしいですね。

大井 イメージとしては、『言語活動編』はサプリメントというか、今の授業に少し足して、補う感じでありたいですね。
初谷 今までのアクティブ・ラーニングの教本や過去の先生方のご実践例と少し違って、生徒の様子に寄り添ったものなので、ぜひ取り組んでみてほしいですね。
———ありがとうございます。
(二〇一七年三月三日 於：大修館書店会議室)

ときに「教科書のこのコラムは読みなさい」と言えると、生徒が調べやすくいいと思います。怪しいサイトを情報源にするより、確かな情報が生徒の手元にあると、指導する方も安心です。
永田 和歌はアクティブ・ラーニングをしやすいと思います。私は過去に、『伊勢物語』『筒井筒(新・編・分)』の歌の解釈をしましたが、思わぬ解釈が出てきて、聞いている私も面白かったですね。
塗田 男女差が出て面白いですよね。古典の授業では、最初の授業と最後の授業であらすじや感想を二〜三行でまとめさせていますが、男子の感想で「女は怖いと思った」とか(笑)。
大井 話し合わせるととても盛り上がりつつ面白いですよね。「筒井筒」は、歌を詠んだときの女の気持ちをホワイトボードに一言で書くという活動の実践が『言語活動編』にも載っていますね。
下西 説明をするのではなくて、ホワイトボードに一語で書かせる、というのは面白いですね。グループワークだから、グループ内でどの語にするか

というところで話し合いになる。
永田 ホワイトボードで見れば、発表時間も短くて、わかりやすいですね。
藤井 この実践では「ワールド・カフェ」という手法が用いられています。こういう手法だと、生徒それぞれの読みを明らかにして、さらに交流ができる。会話の練習にもなっているですね。他にも、『言語活動編』の資料編には、「シンク・ペア・シェア」や「ジグソー法」など、何種類も手法が載っているの、いろいろチャレンジして実践の幅を広げてほしいですね。

大井 一方で、活動自体に目が行きがちになって、「活動あつて学びなし」になってしまわないように気をつけたいですね。
藤井 そうですね。この単元、教材ではどんな力を得たいのか、伸ばしたいのか、という目標を意識して、その目標を達成するために有効な素材と活動になっているか、というのは意識したいと思います。

大井 一方で、活動自体に目が行きがちになって、「活動あつて学びなし」になってしまわないように気をつけたいですね。
藤井 そうですね。この単元、教材ではどんな力を得たいのか、伸ばしたいのか、という目標を意識して、その目標を達成するために有効な素材と活動になっているか、というのは意識したいと思います。

大井 一方で、活動自体に目が行きがちになって、「活動あつて学びなし」になってしまわないように気をつけたいですね。
藤井 そうですね。この単元、教材ではどんな力を得たいのか、伸ばしたいのか、という目標を意識して、その目標を達成するために有効な素材と活動になっているか、というのは意識したいと思います。

大井 一方で、活動自体に目が行きがちになって、「活動あつて学びなし」になってしまわないように気をつけたいですね。
藤井 そうですね。この単元、教材ではどんな力を得たいのか、伸ばしたいのか、という目標を意識して、その目標を達成するために有効な素材と活動になっているか、というのは意識したいと思います。



大井和彦
(おおい かずひこ)
東京都立江戸川高等学校教諭

『いっころ』の襖

いしはらちあき
石原千秋
早稲田大学教授

襖は三回開けられる

収録範囲が、正月の歌留多取りの場面からKが自死したのを〈先生〉が「発見」したところまでだとすると、教科書の『いっころ』ではKと〈先生〉の部屋の間にある襖は三回開けられる。この範囲において襖は実に雄弁なのだが、いまはその三回を引用しておこう。傍線は私が施した。

①十時頃になって、Kは不意に仕切の襖を開けて私と顔を見合えました。彼は敷居の上に立ったまま、私に何を考えていると聞きました。

(下三十五、新潮文庫)

②私は程なく穏やかな眠に落ちました。然し突然私の名を呼ぶ声で眼を覚めました。見ると、間の襖が二尺ばかり開いて、其所にKの黒い影が立っています。そうして彼の室には宵の通りまだ燈火が点いているのです。急に世界の変った私は、少しの間口を利く事も出来ずに、ぼうっとして、

その光景を眺めていました。

その時Kはもう寐たのかと聞きました。Kは何時でも遅くまで起きている男でした。私は黒い影法師のようなKに向って、何か用かと聞き返しました。Kは大した用でもない、ただもう寐たか、まだ起きているかと思って、便所へ行った序に聞いて見たただだと答えました。

(下四十三)

③私は枕元から吹き込む寒い風で不図眼を覚したのです。見ると、何時も立て切つてあるKと私の室との仕切の襖が、この間の晩と同じ位開いています。けれどもこの間のように、Kの黒い姿は其所には立っていません。

(下四十八)

①は歌留多取りから数日後、Kがお嬢さん(静)への恋を打ち明ける場面に続く。②は「上野から帰った晩」のことである。③はKが自死した晩である。①から②の間に、Kから静への恋を打ち明けられた〈先生〉が動揺し、自分も静への恋を打ち明けよ

うかどうしようかと迷う場面がある。そこに「私はKが再び仕切の襖を開けて向うから突進してきてくれれば好いと思いました」という文章がある。「仕切の襖」は文字通り〈先生〉とKとの心の「仕切」となっている。〈先生〉にはその「仕切の襖」を自分から開ける勇気がないのだ。こういう何事にも受け身で、何かを考え続ける人物は漱石文学に特徴的な主人公である。

②は上野から帰った晩のことだった。これはこの連載の前の回(「男同士の争い」)で、〈先生〉はまるでKと戦争をしているようだとして、その記述に使われている用語の特徴から論じた。そして、その戦争で〈先生〉はKに致命傷と言ってもいいような決定的な打撃を与えた。Kのよく用いる「覚悟」という言葉を使って、Kこそが「覚悟」のない人間だと非難したのだった。

その晩に、Kはまた「仕切の襖」を開けたのである。このときKは〈先生〉を求めていたのかもしれない。そう読んでもいい。しかし注目すべきは、「ただもう寐たか、まだ起きているかと思って」と、Kが確認していることだ。

③はついに〈先生〉が静を下さいと静の母(奥さん)に申し込み、その場で承諾を得たが、〈先生〉はそれ

をKに告白しようか迷っているうちに、奥さんがKに話したことを〈先生〉が知ったあとのことである。この間のことは「〈先生〉はKを裏切つて」とか、「〈先生〉はKを出し抜いて」とまとめられることが多い。このまとめ方に、「恋か友情か」というやや古い時代の『いっころ』の教え方が見え隠れしている。Kは〈先生〉に静への恋を告白したが、それ以上でもそれ以下でもない。〈先生〉は『それから』の長井代助よろしく、Kと静との間を取り持つ義務があるわけでもないし、その権利もない。Kに告白されただけでしかないし、〈先生〉も自分に義務があるとも権利があるとも思っていない。ただ、ショックを受けているだけだ。

これを無視して、「〈先生〉はKを裏切つて」とか「〈先生〉はKを出し抜いて」とまとめたとき、「恋より友情を優先すべきである」という欺瞞的な友情観がある。この時代の中流階層以上の家において、結婚の申し込みを本人ではなく奥さんにしたことは当たり前前の、あるいは正式の手続きである。

しかし現代の目から見れば、「〈先生〉はなぜ直接静に申し込まなかったのか」という疑問がでるだろう。この疑問の根底には、女性の意向を無視しているとか、女性の意向を確認もせずという、女性軽

視への批判がある。そのような男女観からすれば、そもそも静の気持ちを直接確認してもいい(先生)がKのためにいったいどういことができたのかと問うべきなのだ。何もできるはずはないだろう。

したがって、「(先生)はKを裏切って」とか「(先生)はKを出し抜いて」というまとめかたにも、「(先生)はなぜ直接静に申し込まなかったのか」という疑問に含まれてるような、女性の気持ちも確認しないで親や男性が勝手に決めていると批判する女性軽視の思想が流れているのだ。「裏切る」、「出し抜く」のは、「(先生)」とKとの男同士だけに使える言葉だからである。

改めて確認しておけば、「(先生)はなぜ直接静に申し込まなかったのか」という疑問を抱いたならば、「(先生)はKを裏切って」とか「(先生)はKを出し抜いて」というまとめ方は批判されるべきなのである。もし仮に読書感想文でこれが両立しているとしたら、そこには思想的混乱がある。

Kは「(先生)に「裏切られて自死した」のではない

「(先生)はKを裏切って」とか「(先生)はKを出し抜いて」というまとめには、物語上の重大な問題をも含んでいる。それは、このまとめは「(先生)」がKに告げずに静との結婚を決めたことを、Kの自死

「ちゃん」を佐幕派への鎮魂歌とする論があるが(平岡敏夫)、漱石文学には佐幕派への思いが底流にある。「(先生)」が遺書で突然のように使う「明治の精神」という言葉は、この晩のKへの鎮魂の言葉かもしれない。

上野でKは恋をした自分について、「(先生)」に「どう思う」と聞いた。「現在の自分について、私の批判を求めたい」様子だった。そのあと、「(先生)」に「精神的に向上心のないものは馬鹿だ」と、いつもはKが使う言葉で攻め立てられたKは、自分が他人にどう見られているかを悟ったにちがいない。「(先生)」の言葉は、「普段とちがう馬鹿者に見える」と言っているようなものである。つまり、上野の闘いとは、Kの自意識をめぐる闘いだったのである。その闘いで、自意識に決定的なほころびができていることを、Kは悟らされた。

しかし、「(先生)」はKが口にした「覚悟ならない事もない」という言葉を、静に恋を告白する「覚悟だ」と「思い込んでしまった」(下四十四)。それはまちがっていたというニュアンスがある。

もともとKは徹底したナルシストだったと言っている。「(先生)」の静への気持ちに気づかないで恋を告白したKをエゴイストだと言う研究者もいた

の原因としているからだ。そうだろうか。

ことは文学的想像力にかかわる。つまり、どれだけ事実関係を整理しても答えは出ないので、記述の解釈が答えを出すということだ。もちろん、それは「正しい」答えというわけではない。多くの人を説得できる答えかどうかということである。そう、文学教育とはあくまで文学的想像力と説得の技術とをどう組み合わせるかという教育なのである。

③をいまいちど確認しよう。

ポイントと言うまでもなく、なぜ「この間の晩と同じ位」とわざわざ書かれているのかというところにある。このときKはすでに自死していた。だとすれば、Kは「この間の晩」に自死しようとしたのではなかったか。だからこそ、「この間の晩」にKは「(先生)」が「ただもう寐たか、まだ起きているか」を確認したのである。もしこの晩に「(先生)」が深く寝入っていたなら、Kは自死していたにちがいない。それは③の「(先生)」が静との結婚を決める前なのだから、Kの自死の原因は「(先生)」はKを裏切って」とか「(先生)」はKを出し抜いて」ではないことになる。

それは上野から帰った晩だった。上野の闘いで、Kは「(先生)」に負けたのである。まるで、明治維新期に上野の山で彰義隊が官軍に敗れたように。『坊

が、エゴイストとは自分のために他人を利用する者のことであって、Kにはそういう面は見られない。Kは他人に鈍感かと問われれば、自分の下宿代を「(先生)」が支払っていることにさえ気づかないのか、それを気にしないようなKにはそういう面が強いと答えていいが、だからといって「(先生)」を利用しているようには見えない。

人の自意識は、自分自身への意識と他人が自分をどう見ているかという意識(ふつう「自意識過剰」とは後者を指す)との二面を持っているが、ナルシストは後者が極端に低い。いわば自意識が自己完結しているのである。そのKの自意識にはころびが生じて、「他人が自分をどう見ているか」が気になり出したのだ。これがKの敗北だった。それを「(先生)」との闘いで思い知らされたKは「覚悟」という言葉を、自死する「覚悟」として使ったのである。だから、上野の山の闘いから帰った晩、「(先生)」が寝入っていれば、Kは自死するはずだったのである。

これが「襖」が語るKが自死した理由である。「襖」は「心」の扉だった。だからこそ、Kはその家で自死することが迷惑だと知りながら、襖を開けて自死した。それはKの「(先生)」へのただ一度きりの切ないメッセージだった。

*第4回 は「WEB国語教室」で公開予定です。



再読文字の指導

— 早い段階で集中的に

塚田 勝郎
つ か だ か つ ろ う
筑波大学附属高等学校教諭

1 再読文字学習の意味とタイミング

今回は句法から離れて、再読文字について考えてみます。漢文入門期の生徒は、ほぼ例外なく再読文字で苦勞するようです。「現代語訳が難しい」「書き下し方がわからない」など症状はさまざまですが、漢文嫌いを作らないためにも、再読文字の指導には細心の注意を払う必要があります。入門期に再読文字をしっかり学習しないと、受験期になっても次のようなミスを犯すことになります。

○未_ダ完成_セ一品 × 未_ダ完成_セ一品

「未完成品」という熟語を訓読し、返り点と送り仮名を付させた結果です。×印の例のように、再読部分の送り仮名と返り点の位置を逆にする生徒が、少なからずいるので

す。このような生徒には、訓読の基本にもどって、送り仮名と返り点の位置を再確認させる必要があります。筆者は再読文字に指導にあたって、次の点を重視しています。

- (1) 入門期の早い段階で集中的に扱う。
- (2) できるだけ親しみやすく、意味のある例文を集め、その例文をしっかりと覚えさせる。
- (3) 「再読文字一覧」などにある訳語は代表的なものであり、解釈の中では柔軟に対処する必要があることを知らせる。

筆者は句法を漢文学習の中心に置くことには消極的な立場です。しかし、再読文字に関しては早い段階での学習が望ましいと考えています。今までご紹介してきた授業プ

ントは主に三年生用でしたが、後に掲げるプリントは一年生を対象としています。

入門期の途中あるいはそれを終えた時点では、既習の教材から得られる例文には限りがあります。漢和辞典や解説書から例文を集める際には、親しみやすく意味のあるものを探るとよいでしょう。出典を示すのは、例文に親しみを持たせるためです。出典は編名を省略して書名だけ、詩の場合は詩題を省いて「○○の詩」で十分です。意味のある例文とは、修身や道德の教条という意味ではなく、事柄を説明するのにふさわしい文のことです。詩を例にする場合は、二句セットで探ると、状況や背景を理解しやすくなるでしょう。意味のある例文を多く覚えることは、迂遠に思えますが、実は漢文の力を向上させる近道なのです。

2 再読文字学習の実際と指導のポイント

高校一年生の授業で用いている「再読文字の学習」のプリントをご紹介します(↓次ページ)。先に述べたように、漢文入門期という段階に配慮して出典は簡略化しています。なお、この「漢文学習シリーズ」は、#02「レバ則ち」の形、#03「対句」、#04「重要語」、#05「人称代名詞」と続きます。

教師が例文を読み、生徒がそれを聞いて返り点と送り仮

名を付す形で授業を進めます。筆者の長年の経験では、最初から返り点と送り仮名が付いたものを使うよりも、この形が効果的です。現代語訳は生徒を指名して答えさせてもよいし、宿題として課してもよいでしょう。プリントの掲載順に、要点を説明します。

1 未

教科書や便覧類の「再読文字一覧表」には、②「しな

い。しでない。」を掲げないものが多くあります。まじめな生徒は「不」と同意の「未」を見た時に、訳文に「まだ」という副詞がうまく収まらずに苦勞するのです。たとえば次の例がそれです。

則_チ吾_ガ斯_ノ役_ノ之不_ハ幸_ハ、未_ル若_カ復_ス吾_ガ賦_ヲ不幸_ニ之_ヲ
甚_シ也。
(柳宗元「捕蛇者説」)

この文で「未だく若かざるなり」は「まだ及ばない」「まだましである」と訳せそうですが、その場合の「まだ」は「よくはないが、どちらかというと」の意味で、あることが実現していないことを表す「未」の訳語としてはふさわしくありません。「まだ」を省いて「及ばない」と訳すのが妥当でしょう。

身近な熟語である「未来」や「将来」は、「未来（未だ来たらず）」「将来（将来に来たらんとす）」と訓読できる。この時、「未」や「将」は、まず「いまだ」「まさに」と読み、後でもう一度「ず」「す」と読まれている。このように「返ってきて再び読む文字」を再読文字と呼ぶ。

「当然」という語も「当然（当に然るべし）」と訓読できるが、「当」を「当にべし」と読む可能性があることを知らないとお手上げだ。

幸いに現在、再読文字として認知されているのは、次の一〇字ほどに過ぎない。この機会に確実に覚え、漢文読解の武器にしたい。

なお、それぞれの文字の訳語はあくまでも代表例なので、実際の文中では柔軟に対処する必要がある。

1 未（いまだず）

①まだしていいない。まだでない。

未成、一人之蛇成。（戦国策）

②しない。でない。*「まだ」のニュアンスはない。

不善之人、未必本惡。（後漢書）

2 将・且（まさしく）す

①いまにも（これから）しようにとする。

人之将死、其言也善。（論語）

一人蛇先成、引酒且飲之。（戦国策）

②いまにもしそうだ（なりそうだ）。

今、人乍見孺子将入於井、皆有怵惕惻隱之心。

不者、若属皆且為所虜。（史記）

*「欲」と意味は同じ。

江碧鳥逾白、山青花欲然（杜甫の詩）

3 当・必・宜・須（べし）グループ *微妙な意味のちがいに注意！

当（まさしく）べし

当然（すべし）だ。当然

及時当勉勵、歲月不待人（陶潜の詩）

必（まさしく）べし

①きつと（おそらく）だ。ろう。

君自故郷来、必知故郷事（王维の詩）

②すべしだ。*「当」より意味が軽い。

寄言全盛紅顏子、必憐半死白頭翁（劉廷芝の詩）

宜（よろしく）べし

するのが適当だ。したほうがよい。

惟仁者宜在高位。（孟子）

須（すべから）べし

ぜひする必要がある。必須

人生得意須盡歡、莫使金樽空對月（李白の詩）

4 猶（由）（なほ）ガ（フ）ごとシ

ちようどのようだ。

過猶不及。（論語）

5 盍（蓋）（なんぞ）ざる

*「何不（何ぞ）ざる」の二字を合わせたもの。

①してはどうか。勸誘

盍各言爾志。（論語）

②どうしてしないのか。詰問

王欲行之、則盍反其本矣。（孟子）

★蛇足 再読文字の書き下し方

最初の読みは漢字で、二度目の読みはひらがなで書く。

「未曾有」を訓読し、書き下す場合

○未だ曾て有らず ×未だ曾て有ら未 ×いまだ曾て有ら未

2 将・且

生徒は、②の意味「いまにもしそうだ（なりそうだ）」を案外忘れがちです。「欲」に同じ意味があることも大事な情報です。

3 当・必・宜・須（べし）グループ

「*微妙な意味のちがいに注意！」と付記したように、四つの再読文字の意味を見分けるのは、なかなか難しいことです。適切な例文によって意味のちがいを納得させたいものです。なお、「当」の項にあげた陶潜の「雑詩」其一の一節「及時当勉勵、歲月不待人」は、原詩では「若い盛りは二度とないのだから、せいぜい行楽に励むべきである」という意味です。これを断章取義（詩文の一部を取り出し、本来の意味を無視して恣意的に利用すること）によって若者に対する訓戒の語と解釈するのは、漢文教育関係者の悪い癖かもしれません。

4 猶（由）

「由」は同音の「猶」と同じ意味で用いられますが、例は多くありません。補足程度でよいでしょう。

5 盍（蓋）

同様に、「盍」もまれに同音の「盍」の代わりに用いられます。これも例をあげるまでもないでしょう。

3 再読文字学習のヒント

生徒の興味を喚起するために、再読文字の成立や変遷を話題にするのも有効でしょう。一例をあげます。

○平安初期までは再読の習慣がなく、「将」「将」「当」「当」のように読んでいた。

○平安中期に再読が始まるが、同じ文字に数種の読み方が混在していた。

○使役の助字「使」「令」を「シテ・シムルコト」と再読することも多かった。

○再読の仕方は次第に整理され、ほぼ現在の読み方に固定されたのは室町後期である。

○再読文字の再読部分の送り仮名の付け方には二種類あるが、現在の教科書はAの方式を採用している。しかし大学入試問題の中には、いまだにBの方式に拠っているものがある。「未だ完成せざるに」と誤読しないように注意したい。

A 未_ダ完成_セ B 未_ダ完成_セ

次回は、句法にもどって否定・禁止の形を扱います。

この連載は大修館HP内「WEB国語教室」でも読むことができます。次回は「WEB国語教室」に7月頃アップする予定です。

『三国志事典』の出版に寄せて

『三国志』ファン必見の事典『三国志事典』が、二〇一七年五月に刊行となります。

刊行を記念して、著者の渡邊義浩先生にコメントをいただきました。



三国志事典
渡邊義浩 著
A5判・上製・388p
定価3,600円＋税

「三国志」の事典を出版したいという思いは、昔から抱いていました。『三国志研究要覧』を出版した一九九六年、『三国志研究入門』を出版した二〇〇七年は特に強く思いました。この『三国志事典』を刊行するのが二〇一七年ですから、すでに二〇年も経ってしまっただけになります。

出版に踏み切れなかったのは、「事典」という言葉の持つ客観性にあります。ご承知のとおり、『三国志』とりわけ、「魏志倭人伝」は異説の多い学問分野です。議論百出の中に客観的に「正しい」事典を執筆する、という行為にたじろいでいたわけです。二〇〇一年から出版を始めた『全譯後漢書』（全一九巻）は、二〇一六年によりやく完成しました。二〇一七年からは『全

譯三国志』に取りかかるつもりですが、完成までには多くの歳月がかかることでしょう。また、たとえ全訳が完成したとしても、客観的な事典が書けるほど、全ての問題を解決して、「正しい」三国志の姿を示せるとは思いません。

それなら、主観的な「事典」を書けばよいではないか、と踏ん切りがついたのは『三国政権の構造と「名士」で扱うことのできなかつた倭国を含めた国際関係を『三国志より見た邪馬台国』として、自分なりにまとめることができたためです。主観的であることを貫くために、『三国志事典』は、すべての項目を一人で執筆しました。校正をしながら、一人の三国志学者が理解する「三国志」の姿を自分なりに示すことがで

きたのではないかと考えております。

『三国志』ってそもそも何？

三世紀の中国における三国時代、すなわち魏（曹魏）・蜀（蜀漢）・呉（孫呉）の三国の歴史を記した書物を『三国志』と言います。これは、正史と呼ばれる、中国で正統と認められた歴史書の一つです。蜀の出身の陳寿（ちんじゆう）という人が書き、三国時代の次の西晋の時代に成立しました。

正史『三国志』は、「魏書」「蜀書」「呉書」の三部に分かれています。本紀（皇帝の年代記）と列伝（臣下の記録）から構成される、紀伝体と呼ばれる形式で記されており、合わせて四四〇人の人物の伝記などからなっています。

一方、『三国志』と聞いて、一般に思い浮かべるのは、たとえば吉川英治の小説や横山光輝の漫画、最近では映画やゲームなどでも楽しまれている物語ではないでしょうか。これらの多くは、『三国志演義』という小説に基づいています。これは、陳寿の『三国志』から千年の後、明末から清初の羅貫中（らかんちゆう）という人物が書いたものです。血湧き肉躍る戦いのシーンや、権謀術数渦巻く英雄たち

の駆け引き、美女とのラブロマンスなどのエンターテインメント性の高い物語の多くは、『三国志演義』や、そこに至るさまざまな『三国志』物語によって肉付けされ、創作されたものですが、すべてのベースは陳寿の『三国志』なのです。そのため、『三国志演義』などを楽しんでいる方が正史『三国志』について知ると、さまざまな発見があることでしょう。『三国志事典』では、折に触れて、『演義』での記述と歴史上の事実との差異について記しています。

●著者プロフィール

渡邊義浩（わたなべ よしひろ）

早稲田大学文学部教授。

一九六二年生まれ。筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科史学専攻修了。文学博士。著書に『三国志演義から正史、そして史実へ』（中公新書）、『三国志』の政治と思想（講談社選書メチエ）、『王莽 改革者の孤独』（大修館書店）など。映画『レッドクリフ』日本語版監修者。

渡邊義浩 著

三國志事典



正史『三國志』に関する、初めての総合的な事典である。今後、『三國志』を読む上での基本書となることは間違いない。

まず第I章で、著者の陳寿や成立状況、『三國志演義』との関係など、正史『三國志』の基礎情報解説される。三國志一般についての概説としてコンパクトにまとまっており、授業で三國志を扱う際の教材研究にも最適だ。

メインとなる第II～IV章では、『三國志』に伝のある人物全員を取り上げて解説しており、

四六判・並製・二八八ページ
定価Ⅱ本体二〇〇円十税

評者Ⅱ大西章枝

いきと風流

日本人の生き方と生活の美学



本書は、古代から江戸末期までの「美学」(学術用語ではなく世間一般でいうところの「美学」)について、その時代ごとのキーワード「風流」「みやび」「数寄」「婆娑羅」「わび」「すい」「いき」などをもとに述べられたものである。

『万葉集』『伊勢物語』『大鏡』など、授業でおなじみの文学作品が採り上げられているのだが、現代語訳や解釈の語り口が絶妙で、何度も思わず吹き出してしまった。特に『万葉集』冒頭の雄略天皇の歌のくだりは、

思わず中学生の娘に読んで聞かせてしまったほどである(普段古典には興味を示さない娘も「面白い!」と言っていた)。

時代とともに変化し洗練されていく「美学」を追いかけてながら、その時代ごとに、現代にも通じる価値観に共感したり、「カッコよく生きるってやっぱり大変なのね!」とため息をついたり、無性に当時の人たちがいいじらしく思えてきた。古典の世界の人たちを身近に感じられるようになる一冊である。

NPO多言語多読 監修

にほんご多読ブックス vol.1～8



A5判・各4～7冊函入り
定価Ⅱ1・2巻 本体二四〇円十税
3～8巻 本体二五〇円十税

評者Ⅱ樋口万喜子
横浜国立大学国際教育センター講師

日本語を母語としない生徒(以下JSL)はあなたの高校にはいませんか。外国人生徒だけでなく、近年、日本国籍の帰国生も急増しています。

十五歳の日本語母語話者の理解語彙は約四万語といわれており、JSLが数年で追い付くのは至難の業です。また、母語、外国語(第二言語)にかかわらず、語彙を豊かにし読解力を育成するには多読が重要であることは国内外の言語習得研究者が異口同音に唱えるところです。では、まだ語彙の少ないJSL

Lが読書を楽しめるようにするには、どうしたらよいでしょう。理解語彙+αで文法的にも易しく書かれた本が必要です。このシリーズには六つのレベルがあり、さまざまなジャンルのテキストが写真やイラスト付きで入っているの、母語を獲得する時と同じプロセスで、楽しみながら語彙を増やしていくことができます。

授業では個別読みが基本ですが、内容確認の質問を教師だけでなく、生徒同士で考え、問い合えば、楽しいアクティブラーニングとなるでしょう。

A5判・上製・三八八ページ
定価Ⅱ本体三六〇円十税

評者Ⅱ吉川 歩

巻末の人名索引と合わせて便利に活用できそう。

三國志ファンに嬉しい第VI章「名場面四十選」では、名場面を訓点付きの原文とともに掲載。諸葛亮の名言「出師の表」も全文を収める。さらに、三國時代の文化面を概説した第四章「思想と文学」、日本古代史ファンも注目の第八章「魏志倭人伝と国際関係」など、さまざまな切り口から三國志の世界の魅力を感じ取れる構成で、読んで楽しく、引いて便利な事典として座右の一冊となるだろう。

野田尚史・野田春美 著

〈アクティブ・ラーニング対応〉日本語を分析するレッスン



A5判・並製・一七六ページ
定価Ⅱ本体一五〇円十税

評者Ⅱ山本 敦

大学の日本語学の初級テキストだが、まず「レッスン1 しりと」にあって意表を突かれる。しかし内容を見ていくと、この単純な遊びの中に言語分析の鍵になる要素がこんなに埋もれていたのかと驚く。音と表記の問題、単語とは何か、固有名詞と一般名詞の区別、等々。

「ヒント」に助けられながら「問題」を考えるうちに、ふだん無意識に使っている日本語の仕組みが鮮やかに解き明かされていくのである。

一五あるレッスンでは、同様

に「若者ことば」「方言」「マンガ」「漫才」など、身近な話題が扱われる。これらを入力に、読者は言語学の考え方の基本に触れるよう巧みに誘導される。

しかし本書の「問題」と「ヒント」は、正解に導くためではなく(正解がなさそうなものも多い)、むしろ議論が盛り上がるように作られている。議論することが目的で、議論によって授業を進めるのが前提なのである。従来の教科書のイメージを一新する画期的な本。高校の授業でも大いに参考になるだろう。

平成
30
年度用

大修館書店国語教科書のご案内

「現代文B」「古典B」「国語表現」

7点の大改訂！

現代文B



現代文B 改訂版 上巻・下巻
(現B329・330)



精選現代文B 新訂版
(現B331)



新編現代文B 改訂版
(現B332)

古典B



古典B 改訂版 古文編・漢文編
(古B339・340)



精選古典B 改訂版
(古B341)



新編古典B 改訂版
(古B342)

国語表現



国語表現 改訂版
(国表 307)

各教科書の指導資料については

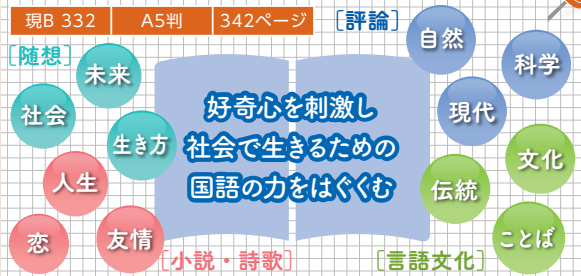
- ・ 付属資料一部見本
- ・ 大修館書店ウェブサイト

(<http://www.taishukan.co.jp>)

をご覧ください。

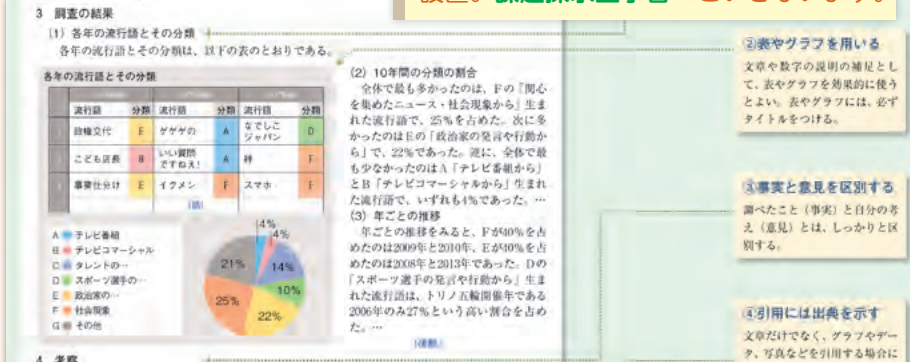
実社会で生きる国語力を、さらに伸ばす

新編現代文B 改訂版



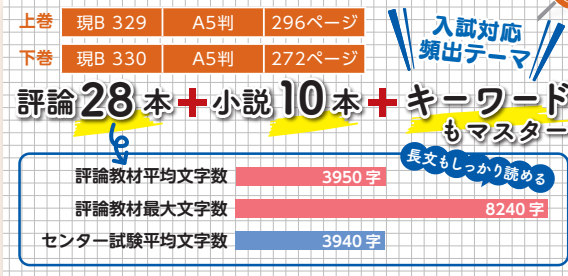
教科書が読書への道案内になるよう単元テーマに沿った「読書の窓」を掲載。

新設単元「情報化時代に生きる」では、テーマを決めてレポートを書く活動を設置。課題探求型学習へといざないます。



豊富な教材から選べる分冊版現代文が、さらに充実

現代文B 改訂版 上巻 下巻



入試頻出の筆者とテーマによる歯ごたえのある評論28本を収録。そのうち7本が新教材です。

近現代評論史 136

近現代評論史 136

文化の広がり 22

キーワード解説

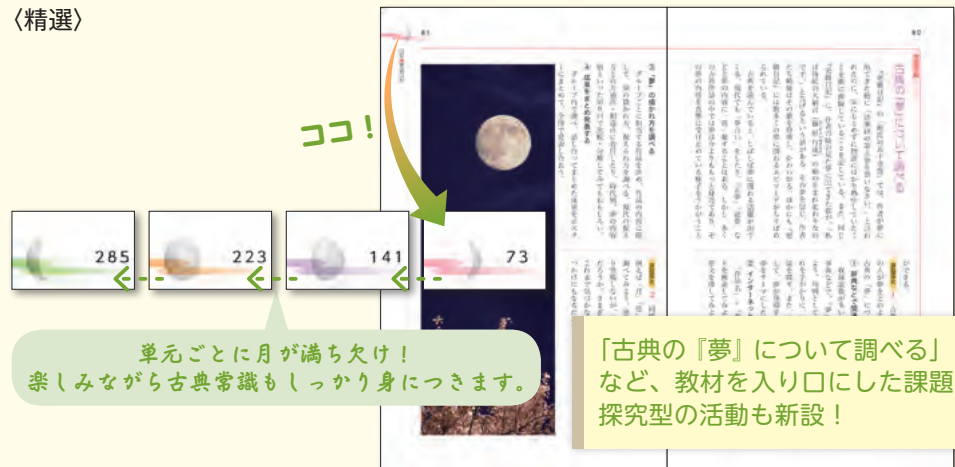
共同体(community) community (英) 家族や村社会など、血縁や地縁で結びつき、伝統や価値観、利害などを共有する集団。

「近代評論史」では評論の変遷と重要キーワードが一覧できます。

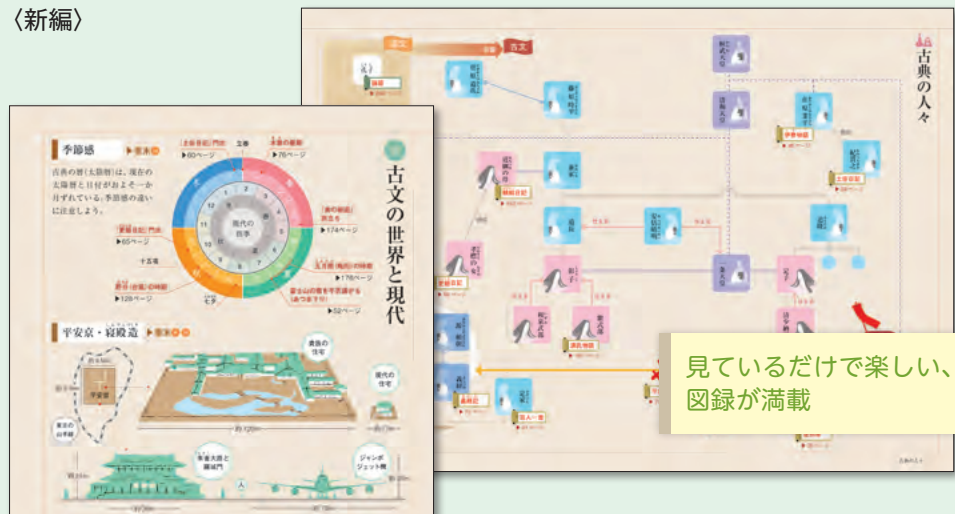
〈分冊〉



〈精選〉



〈新編〉



豊富な教材を、見やすく、使いやすく、わかりやすく

古典B 改訂版 古文編・漢文編

古B 339・340 A5判 312ページ／182ページ

新設
工夫満載！

使える
コラム
充実の
図録・資料
計7本！
計36ページ！

わかりやすい
教材化
見やすい
レイアウト
見開き構成！

古文編
93 教材
漢文編
66 教材



入試を見据えた効率的な2年間履修に

精選古典B 改訂版

古B 341 A5判 392ページ

使える
コラム
11本

わかりやすい
教材化

図録
資料
46ページ

漢文
66 教材
古文
66 教材

バランスのとれた
古典Bの
スタンダード

見やすい
レイアウト



古典がもっと身近になる、新しい古典教科書

新編古典B 改訂版

古B 342 A5判 366ページ

こんな教科書で古典の授業がしてみたかった！

古典の世界が目の前に立ち上がる！

好評の教科書が、改訂でさらに魅力アップ！



大好評の教科書が、多くの要望に応じてさらにパワーアップ

国語表現

改訂版

国語307

B5判

206ページ

2部構成

で使いやすい

問題数

200問以上!!

実践的な問題を解きながら
学習を進められます。

読み物教材

39本!!

生徒に読んでほしい、考えてほしい
テーマの文章を集めました。

使えるグラフ

9本!!

小論文やプレゼンの題材に!

国語表現

改訂版



大修館書店

実践トレーニング ①

次の文章を読み、後見返し「(1)」「(6)の問いに答えよう。」

現在、私たちは、ど、地球規模で取りに直面している。多非政府組織)の活動行われている。だが一人一人が自分の生以前、社会科見学にお話を聞きたくなうの人によれば、燃缶ベッボトル金属「それを分別し直す」が割かれている原因となる二酸化炭

もっと多くの問題に取り組みたいというご要望に応え、実践問題を設けました。それぞれの単元で学んだ内容をまとめて復習できます。

悪文判定クイズに挑戦

誤字や文法的な間違いが含まれた文、読みにくい文、うな悪文をできるかぎり避け、整った文、悪文が生まれる原因とそれを改善するた

(1) 表紙と目次

次の(1)～(5)は、仮名遣い、送り仮名用表現の使い方に問題がある文のなるよう修正しよう。

- ① 交通で聞いたとうりに歩いたが、
- ② 明日は必ずずります。
- ③ 中学生のときよりも成績が上がった。
- ④ 仲のよい兄弟だが性格は対象的だ。
- ⑤ 油断をしていたら、ライバルに足元をすくわれた。

問題を解きながら、
国語の力が身につけられる構成です。

入試頻出のデータ型小論文を書くための教材を新設。

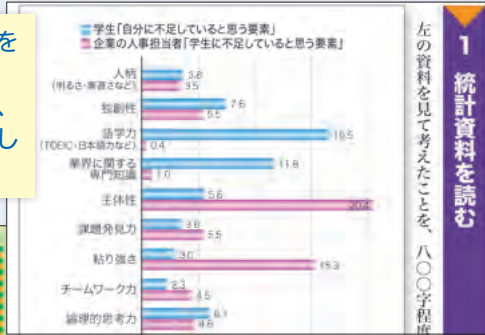
グラフの読み方から、考察、意見の書き方を丁寧に解説しました。

読んで表現に生かそう

「それでいいです」
敬語は言葉の身だしなみ
論理的な表現とは？
ファストフィッシュ
「再生」は日常生活から
無痛文明
情報化社会と考える精神
コインは円形か？
夢を語る
なりたい「モデル」を見つけよう

書くことの意味

日野原重明 84 83
内田 樹 82 61
野口聡一 60 59
佐藤信夫 58 57
有山柳雄 57 26
森岡正博 25 24
香山リカ 24 23
北原保雄 23 26
野矢茂樹 26 27
新聞記事より 27 26
安藤雄雄 26 27
再生 27 26



読み物教材も充実！
各単元の学習の補助にも、小論文の題材にも使えます。